

取扱説明書

1輪管理機

YK301SK

YANMAR

製品の改造禁止

当製品が使用している電子機器の改造や、製品の使用目的以外の作業や改造はしないでください。改造や目的外の使用をした場合、重大な事故や機械の破損をまねくおそれがあります。また使用目的以外の作業や改造は保証の対象になりませんので、ご注意ください。

安全保障貿易管理規制について

当社製品および関係技術資料を輸出もしくは非居住者に提供する、または海外で技術提供する場合、安全保障貿易管理に関する日本および関係各国の関連規制を受ける場合があります。

機体銘板とエンジン番号

機体銘板とエンジン番号には、アフターサービスをお受けになるときに必要な情報が記載されています。
機体銘板は、フレーム右側面（図 1）に貼り付けられています。
エンジン番号は、機体前方のエンジンクランクケース（図 2）に打刻されています。

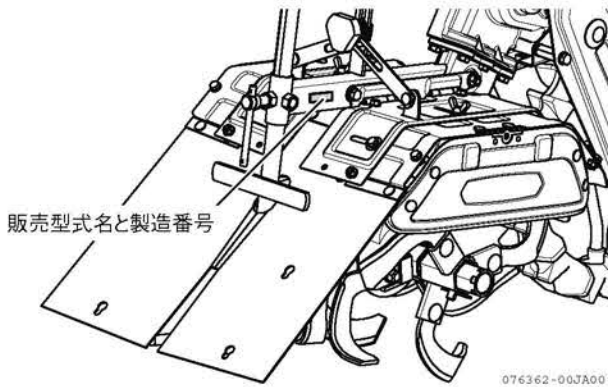


図 1 機体銘板

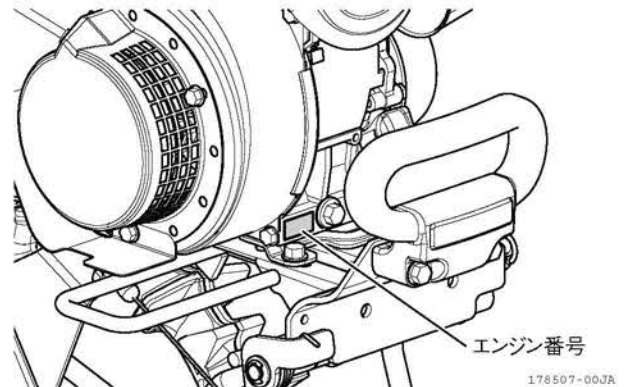


図 2 エンジン番号

販売型式名、製造番号などを記入してください

1輪管理機の製造番号とエンジン番号は、アフターサービスをお受けになるときや、万一盗難の被害にあった場合などに必要となりますので、各銘板に記載されている販売型式名や製造番号などをつぎの表に記入してください。

販売型式名:	アタッチメント型式名および製造番号:
区分:	
製造番号:	
エンジン型式:	
エンジン番号:	

- ※ ご購入の1輪管理機によっては、該当しない項目もあります。
- ※ アフターサービス、保証については、57ページをご参照ください。

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください

このたびは、ヤンマー1輪管理機をお買い上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は、1輪管理機の取扱方法と使用上の注意事項について記載しています。

本製品をご使用いただく前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。

また、お読みになったあとも、この取扱説明書を製品に近接し、いつもお手元に置いて、必要に応じて活用してください。

お願い

- この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- 本製品を貸したり、譲渡したりするときは、必ずこの取扱説明書および、同梱されている「安全に作業をするために ヤンマー管理機・ミニ耕うん機」を本製品と共にお渡してください。
- この取扱説明書および安全銘板を紛失または損傷された場合は、すみやかに当社の特販店、またはJAにご注文ください。
- 安全に対する項目については、同梱されている「安全に作業をするために ヤンマー管理機・ミニ耕うん機」に記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことやお気づきのことがございましたら、お買い上げいただいた特販店、またはJAへご相談ください。
- 本書1ページの記入欄に1輪管理機の製造番号、エンジンの番号などを記入してください。

おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容には、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載漏れなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。
- 本取扱説明書に記載されている部品番号は変更されることがあります。部品、アタッチメント、オプションをご注文される際は本機の販売型式名、製造番号、エンジン番号をお買い上げいただいた特販店、またはJAへお伝えください。

- **この1輪管理機は、路上(公道)走行できません。**

この1輪管理機は、ほ場内の作業を目的としており、小型特殊自動車の型式認定を受けておりません。ほ場まで移動される場合は、トラック等に載せて運搬してください。

- **この1輪管理機は、日本国内での使用を想定しています。**

この1輪管理機は、日本国内のみでの使用を想定しており、日本国外での使用は想定しておりません。日本国外で使用した場合や、海外へ輸出した場合は、当社の品質保証の適用範囲外となります。

説明記号の見かた



危険

その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。



警告

その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものを示します。



注意

その警告文に従わなかった場合、けがを負う可能性があるものを示します。

[重要]

誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

[参考]

作業能率をよくしたり、誤った操作をしたりしないための補足説明です。

方向について

本機の前後は、右図のように作業員から見た方向で表します。

本文中の、前進・後進についても、作業員から見た方向で表します。



049155-01JA00

本製品の使用目的について

本製品は、ほ場の耕うん、うね立て、培土、除草などの管理作業用の作業機としてご使用ください。

使用目的以外の作業や改造などはしないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、重大な事故や機械の破損をまねくおそれがあります。また、保証の対象になりませんので、ご注意ください。

(詳細は、保証書をご覧ください。)

本製品の使用条件について

本製品は、ほ場の耕うん、うね立て、培土、除草などの管理作業用の作業機として設計、製造されています。

表の条件で使用することにより本来の性能を発揮します。

表 1 使用条件

温度	-5℃～40℃
高度	1500 m以下
傾斜度	5度以下

型式と仕様について

本製品には、つぎの仕様があり、取扱説明書の内容で、型式・仕様によっては該当しない項目もあります。





表 2 型式と仕様

型式	仕様	馬力 [kW(PS)]	走行部		ロータリー部		その他
			変速段数	車輪	変速段数	耕幅 [mm]	
YK301SK	S	2.2(3.0)	前進2段 後進1段	ゴムラグ車輪 (1輪・2輪組替可)	正転1段 逆転1段	170～355	—
	HNTJB		前進2段	車輪なし		爪なし	尾ソリなし
	HUNTJB						

運転操作のシンボルマーク

1輪管理機を安全に能率よく操作、作業していただくために、つぎのシンボルマークを1輪管理機および取扱説明書の中で使用しています。シンボルマークの意味をよく理解していただき、安全にご使用ください。

表 3 シンボルマーク

	エンジン停止		ガソリン燃料		エンジン始動
	チョーク				

目次

総目次

機体銘板とエンジン番号 1

販売型式名、製造番号などを記入してください..... 1

はじめに 2

1章 必ずお読みください 8

安全銘板 8

安全銘板の貼り付け位置 8

安全銘板の手入れについて 9

2章 運転のしかた 10

各部のはたらきと使いかた 10

運転操作部 10

本機周辺部 12

エンジン部 14

作業調節部 15

運転前の点検 16

点検のしかた 17

エンジンの始動と停止 18

始動のしかた 18

停止のしかた 20

運転操作 21

発進のしかた 21

変速のしかた 22

旋回 of のしかた 22

停車のしかた 23

スタンドの操作のしかた (YK301SK,S) 24

3章 作業のしかた 26

作業前の準備 26

ハンドル高さの調節のしかた 26

ロータリーカバーの調節のしかた 26

車輪幅の調節のしかた (YK301SK,S) 28

作業について 30

耕うん深さの調節のしかた
(YK301SK,S) 30

ほ場での作業のしかた 30

爪・爪軸のセットのしかた
(YK301SK,S) 31

4章 お手入れのしかた 35

作業後の手入れについて 35

作業後の手入れのしかた 35

各部の注油箇所 36

点検・整備のしかた 38

定期点検・整備の時期について 38

定期点検一覧表 39

燃料の点検・補給・排出のしかた 40

オイルの点検・交換のしかた 42

エアクリーナーの洗浄のしかた 45

燃料フィルターエレメントの掃除のしかた 45

主クラッチレバーの点検・調整のしかた 46

ハンドル上下レバーの点検・調整のしかた 47

増締めするところ 48

耕うん爪の点検・交換のしかた 48

点火プラグの点検・掃除・交換のしかた 49

燃料ホース・電気配線の点検のしかた 51

不調診断のしかた 52

5章 保管のしかた 53

保管するときは 53

特に長期保管するときは(1カ月以上) 53

保管のしかた 53

6章 輸送のしかた 54

トラックへの積み・降ろしのしかた 54

7章 仕様 55

主要諸元 55

8章 廃棄物の処理について 56

廃棄をするときは 56

1 輪管理機の廃棄 56

廃油の処理 56

ホース類の処理 56

9章 サービスと保証について 57

保証書は大切に保管してください 57

アフターサービスをお受けになるときは 57

10章 索引 58

11章 部品リスト(部品早見表) 59

主要消耗部品 59

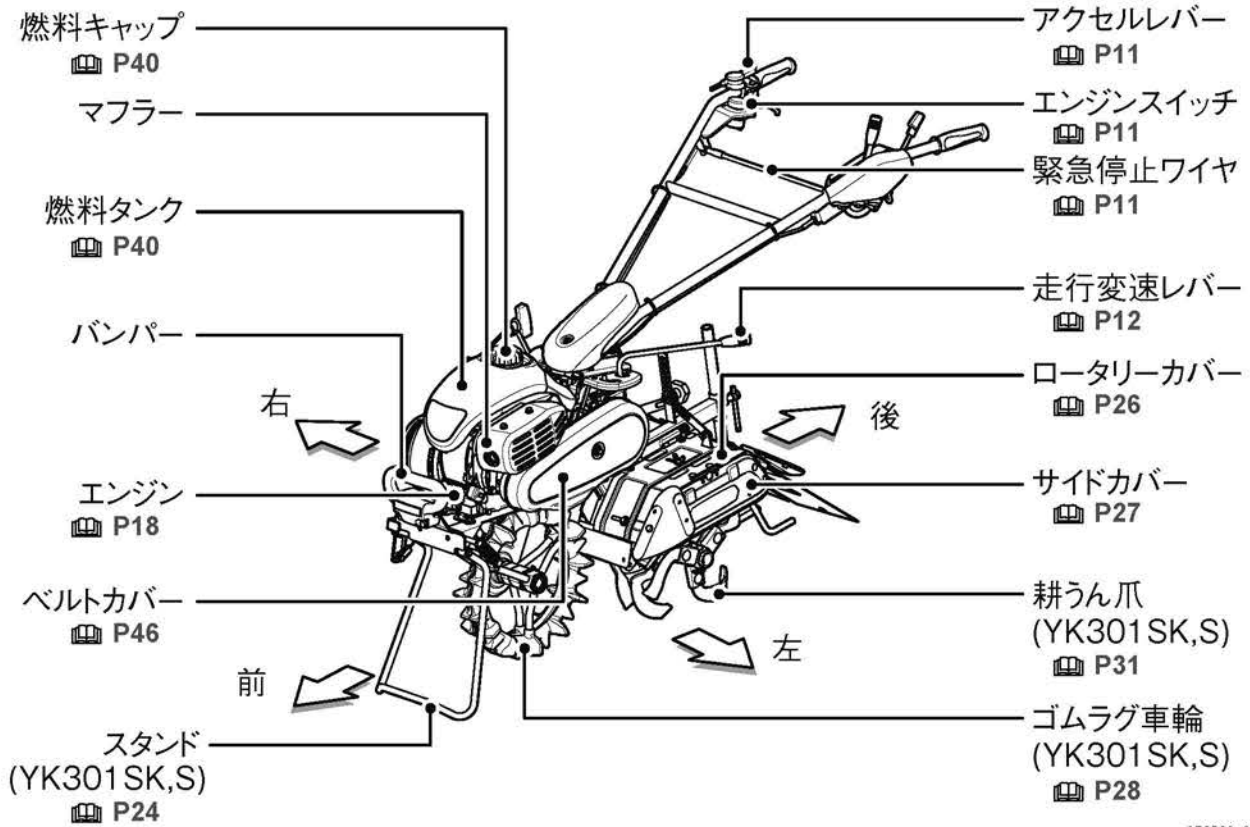
12章 用語解説 60

イラスト目次

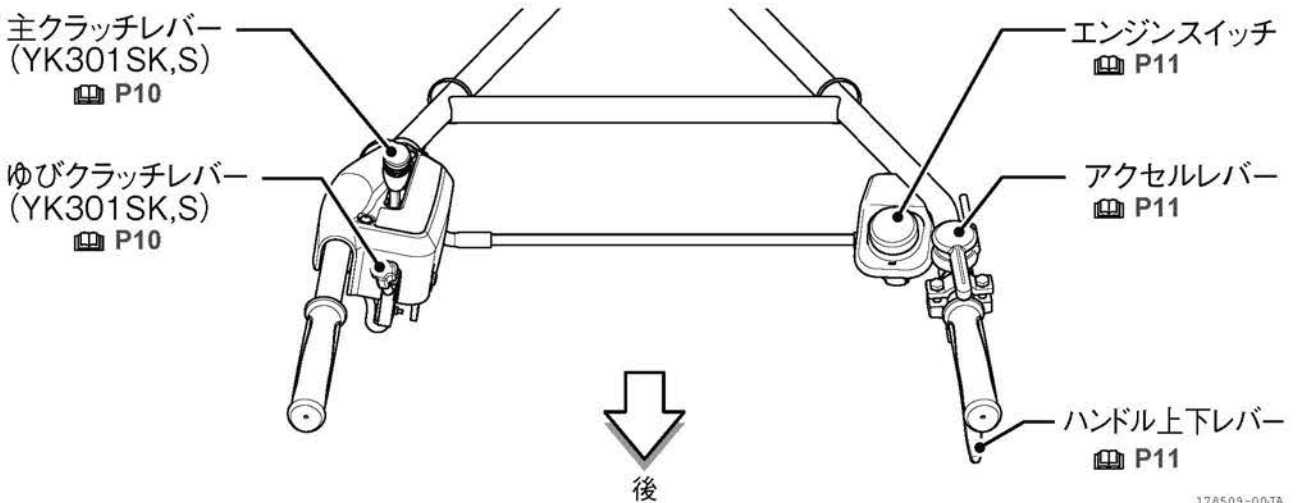
外観

※イラストは、YK301SK,Sをモデルにしています。

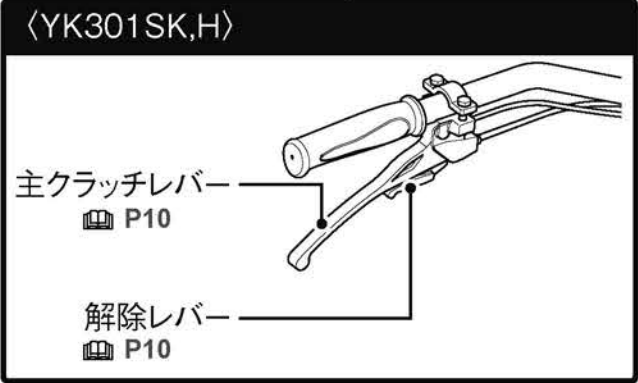
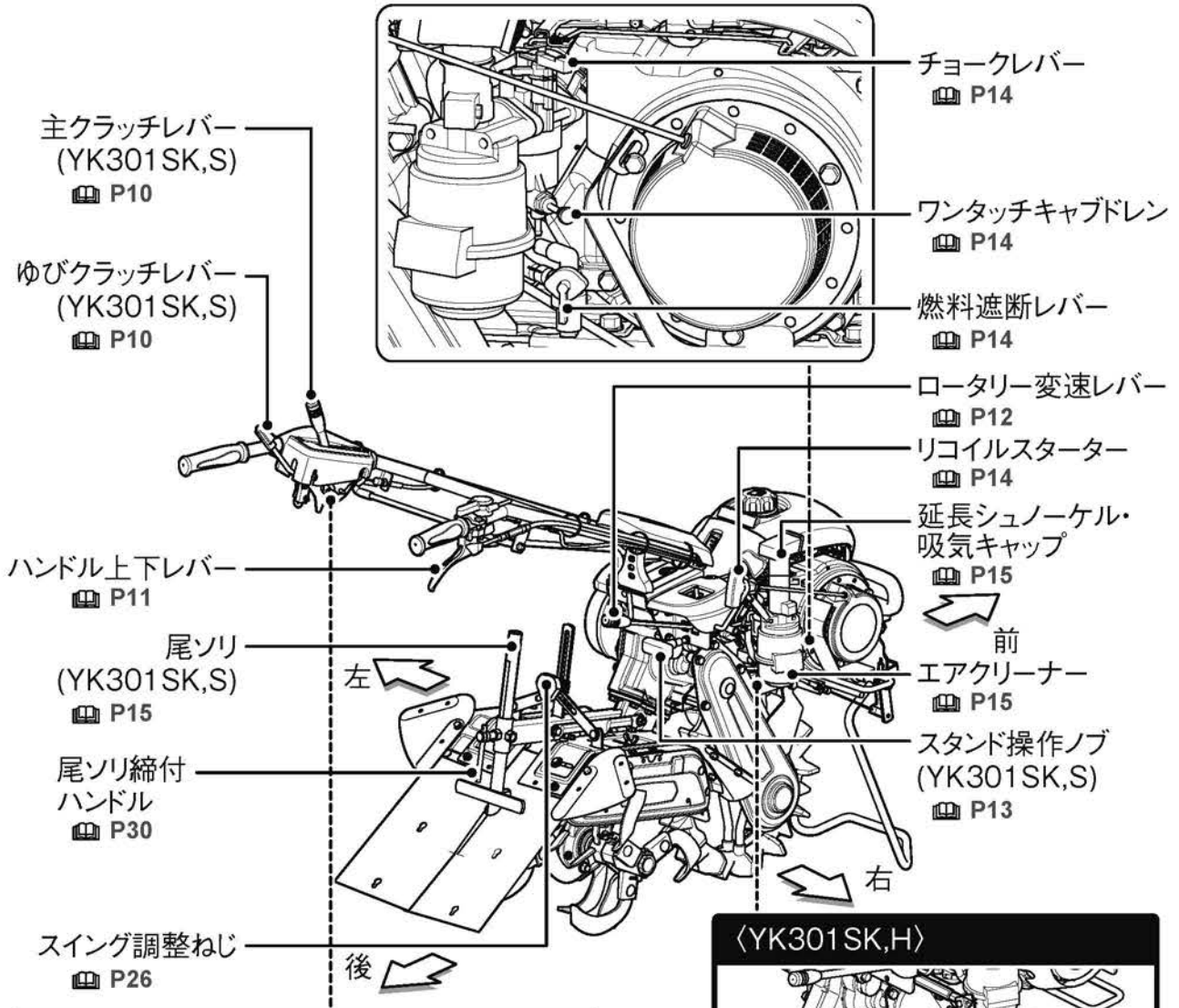
目次



178508-00JA



178509-00JA



1章 必ずお読みください

安全銘板

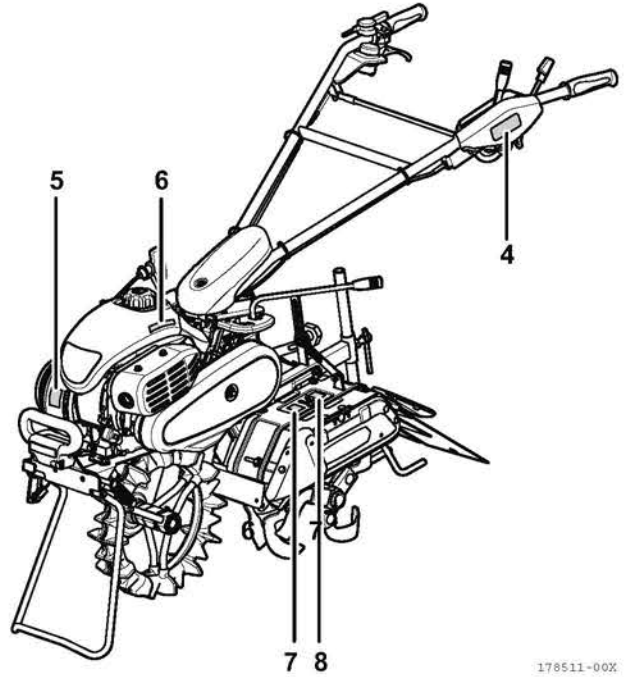
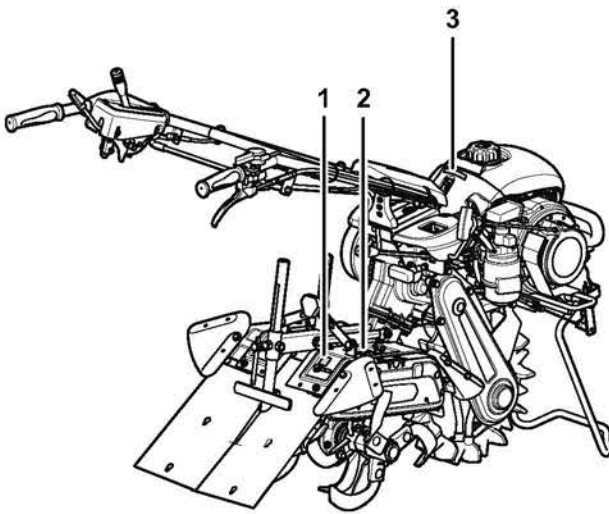
安全銘板の貼り付け位置

安全銘板の貼り付け位置を示したものです。

安全銘板には、安全に作業を行っていただくための事項が記載されています。必ず作業をはじめる前に読んでください。常に汚れや破損のないように保ち、もし破損、紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。

※イラストはYK301SK,Sをモデルにしています。

1
必ずお読みください



178511-00X

(YK301SK,S)

<p>1. 1W4909-92080 警告(バック)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>警告</p> <ul style="list-style-type: none"> ●後進時は、後方に注意してください。 ●ケガをするおそれがあります。 <p style="font-size: small;">1W4909-92080</p> </div>	<p>2. 1W4909-92070 警告(ロータリーバック)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>警告</p> <ul style="list-style-type: none"> ●後進作業はぜったいしないでください。 ●ケガをするおそれがあります。 <p style="font-size: small;">1W4909-92070</p> </div>
---	---

3. 160692-07460 危険(火気厳禁)

危険

火気厳禁

●給油口に火を近づけると火災になるおそれがあります。●給油中は、エンジンを停止してください。

160692-07460

ガソリン

4. 1A2260-87700 注意(取り扱い)

注意

- 取扱説明書をよく読んで安全に作業してください。
- エンジン始動時はかならず主クラッチを「切」にしてください。

1A2260-87700

5. 1A2260-87100 警告(排ガス)

警告

排ガスに注意

室内および換気の悪い場所での運転は排ガスが充満し、人体に有害です。

1A2260-87100

6. 1A2260-87500 注意(マフラー高温)

注意

マフラー高温注意

さわるとやけどをするおそれがあります。

1A2260-87500

7. 1A2260-87600 注意(エンジン停止)

注意

点検時エンジン停止

エンジンをかけたまま点検整備をするとケガをするおそれがありますので、かならずエンジンを停止してください。

1A2260-87600

8. 1S0205-86900 警告(ロータリー回転)

警告

ロータリーの回転部に接触するとケガをするおそれがありますので、回転部に近づかないでください。

1S0205-86900

安全銘板の手入れについて

- 安全銘板は、いつもきれいにして、傷つけないようにしてください。安全銘板が汚れているときは、石けん水を付けた布でふき、やわらかい布で水分をふき取ってください。
- 高圧洗浄機の高圧水を、安全銘板に当てないでください。はがれるおそれがあります。
- 安全銘板を破損や紛失したときは、新しい安全銘板を元の位置に貼ってください。
安全銘板はお買い上げいただいた特販店、またはJAにご注文ください。

1

必ずお読みください



2章 運転のしかた

各部のはたらきと使いかた

運転操作部

ハンドル部周辺のレバー、スイッチについて説明します。

主クラッチ

エンジンからの動力を伝えたり、切り離したりするときに使用します。

■ YK301SK,Sの場合

主クラッチレバー

主クラッチレバーを前方「入」位置へ倒すとクラッチが入ります。

主クラッチレバーを手前「切」位置へ引くとクラッチが切れます。

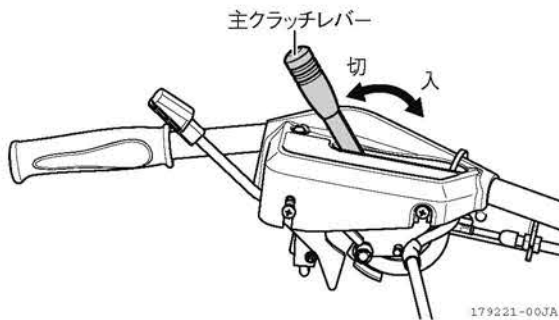


図 2-1 主クラッチレバー

ゆびクラッチレバー

押すと「入」となりクラッチが入ります。もう一度押すと「切」となりクラッチが切れます。レバーを押すごとに「入」、「切」が替わります。

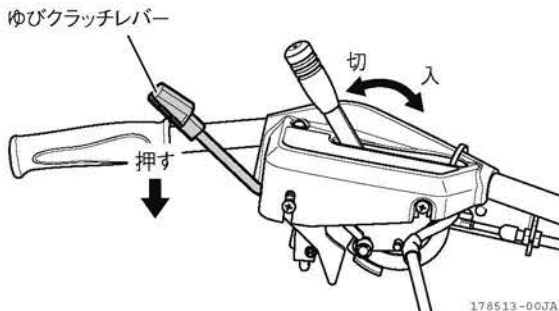


図 2-2 ゆびクラッチレバー

ゆびクラッチレバーを操作すると主クラッチレバーが連動して動きます。

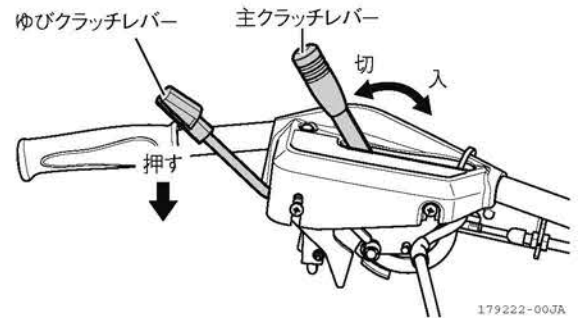


図 2-3 クラッチレバーの動作

■ YK301SK,Hの場合

主クラッチレバーを握ると「入」、主クラッチレバーと解除レバーを一緒に握って手を離すと「切」になります。

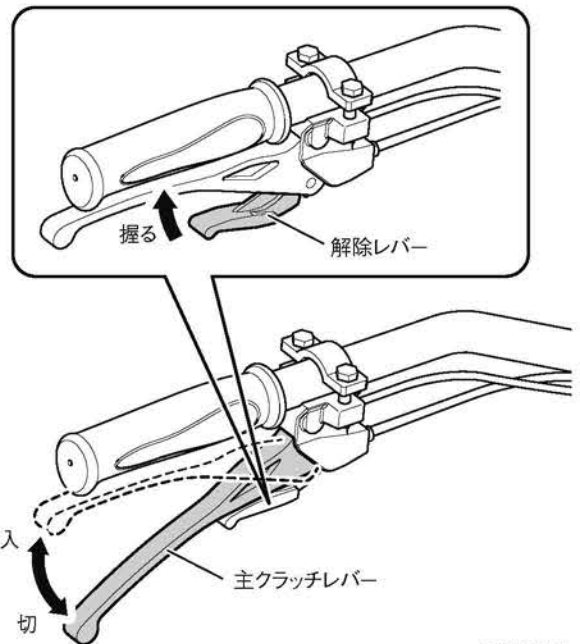


図 2-4 主クラッチレバー

【参考】

エンジン始動時は、主クラッチレバーを「切」位置にしないと始動できません。

緊急停止ワイヤ(YK301SK,S)

非常時に緊急停止ワイヤを引くと主クラッチが「切」になり機械が停止します。(上下前後どの方向に引いても作動します)

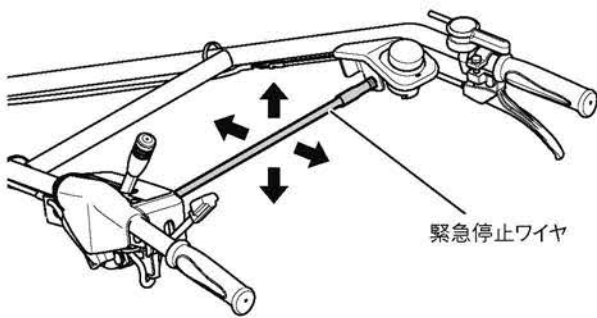


図 2-5 緊急停止ワイヤ (YK301SK,S)

アクセルレバー

エンジン回転を調整するときに使用します。

- ・「低」側：エンジン回転が遅くなります。(低速)
- ・「高」側：エンジン回転が速くなります。(高速)

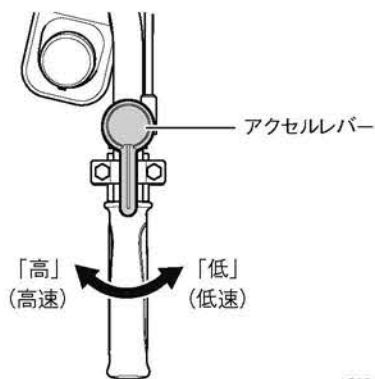


図 2-6 アクセルレバー

エンジンスイッチ

エンジンを始動、停止するときに使用します。

■ エンジン始動時

エンジンスイッチを押しながら「運転」位置へ回すと、エンジンが始動できる状態になります。「運転」位置のとき、エンジンスイッチは浮き上がります。

■ エンジン停止時

エンジンスイッチを押すと、「停止」位置に戻り、エンジンが停止します。

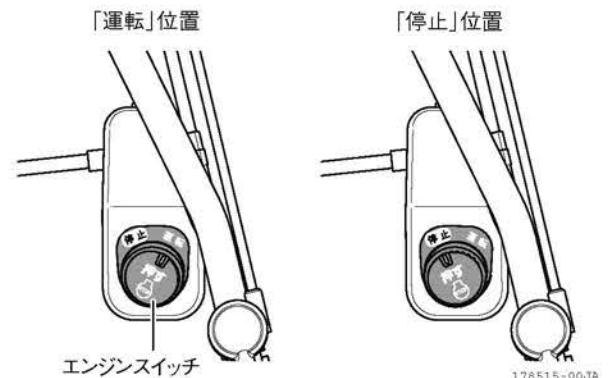


図 2-7 エンジンスイッチ

【参考】

- 緊急時には、エンジンスイッチを押し、エンジンを停止させてください。
- エンジンスイッチが「停止」位置では、エンジンを始動することができません。
- エンジンの始動時と停止時の操作のしかたは、18～20ページを参照してください。

ハンドル上下レバー

作業者の体格や作業に合わせて、ハンドルを使いやすい高さに調節するときに使用します。

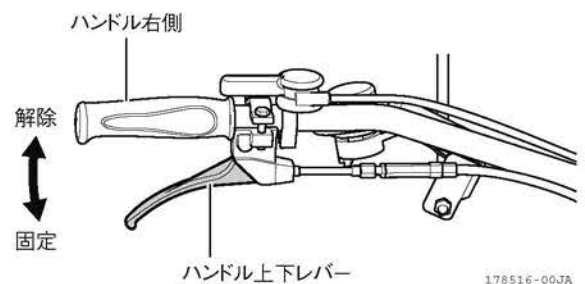


図 2-8 ハンドル上下レバー

ハンドルは上下4段階に調節できます。

ハンドル上下レバーを握ったまま、ハンドルを上下に動かし、適切な位置でレバーを離すと、その位置で固定されます。

本機周辺部

エンジン、ミッション周辺部のレバーなどについて説明します。

走行変速レバー

走行速度の変速に使用します。

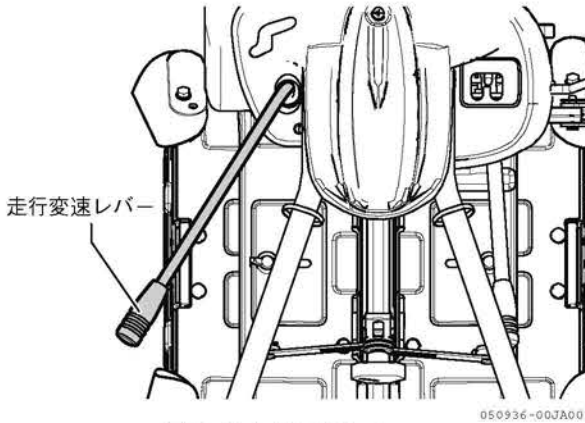


図 2-9 走行変速レバー

YK301SK,S

走行変速レバーで前進2段、後進1段の変速ができます。

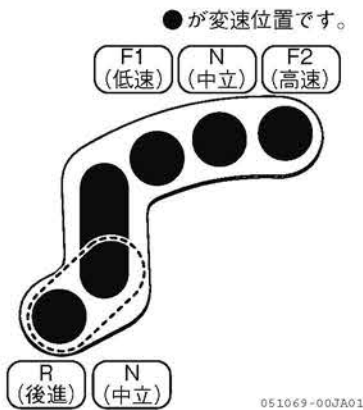


図 2-10 変速位置(YK301SK,S)

【重要】

ロータリー変速レバーが「正」(正転)または「逆」(逆転)位置の場合、走行変速レバーを点線で囲まれた位置にすることができません。

YK301SK,H

走行変速レバーで前進2段の変速ができます。

●が変速位置です。

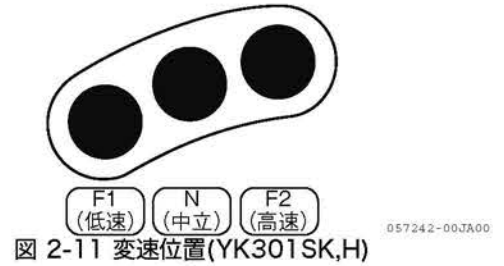


図 2-11 変速位置(YK301SK,H)

ロータリー変速レバー

作業に応じてロータリー回転を、正転1段・逆転1段の変速ができます。

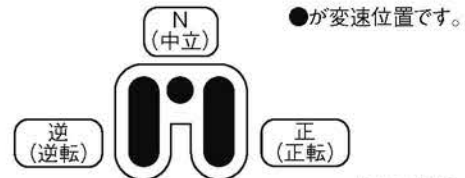
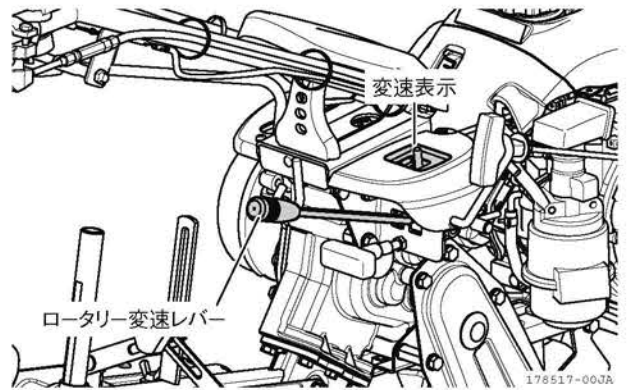


図 2-12 ロータリー変速レバー

【重要】

- 作業時以外は必ず中立位置にしてから走行してください。
- 走行変速レバーが「R」(後進)、「N」(中立)位置にあると、ロータリー変速レバーは「N」(中立)以外には入りません。

スタンド操作ノブ(YK301SK,S)

スタンドを立てるときに使用します。

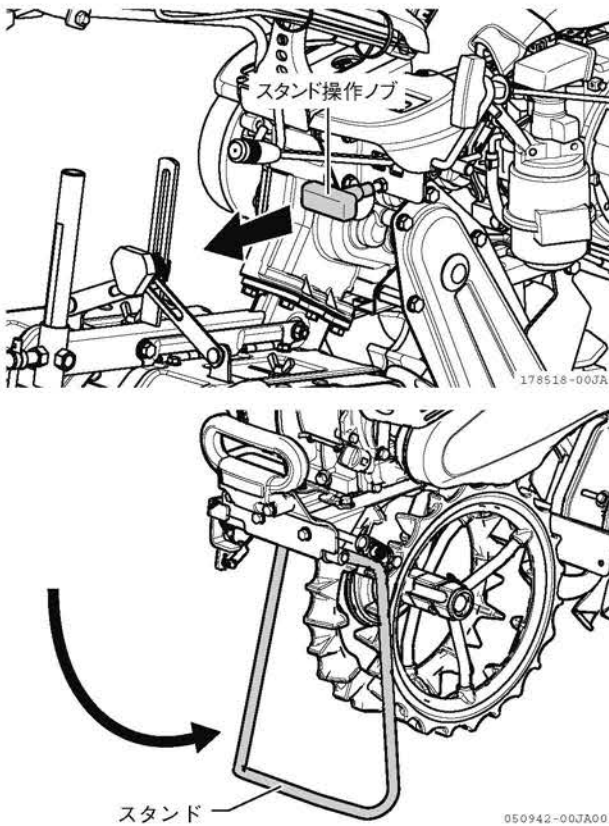


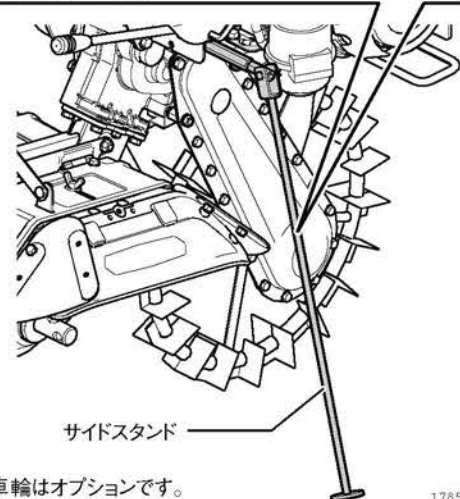
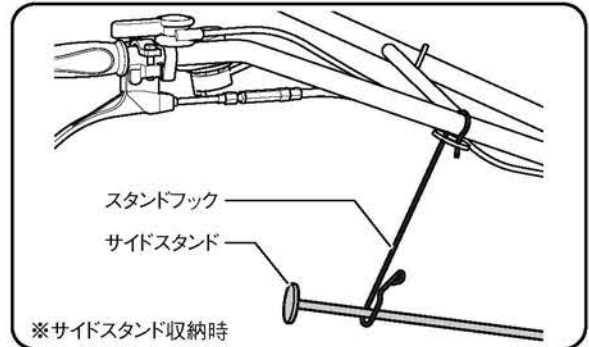
図 2-13 スタンド操作ノブ (YK301SK,S)

操作ノブを引くとスタンドが下がります。
スタンドの操作のしかたは、24ページをお読みください。

サイドスタンド(YK301SK,H)

スタンドを立てるときに使用します。

1. スタンドを立てる場合、スタンドフックからスタンドを外し、倒れない位置に置きます。
2. 移動、作業を行う場合は、必ずスタンドをスタンドフックに収納します。



※図の車輪はオプションです。

図 2-14 サイドスタンド (YK301SK,H)

エンジン部

エンジン部のレバーなどについて説明します。

リコイルスターター

エンジンを始動するときに使用します。

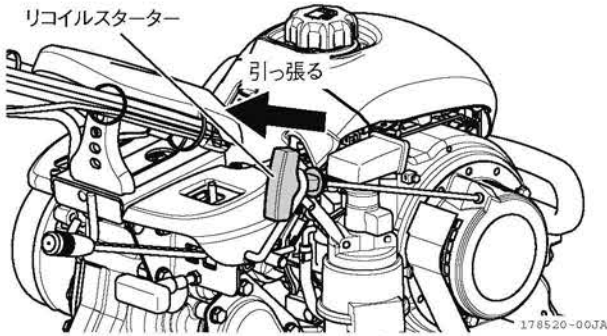


図 2-15 リコイルスターター

【重要】

リコイルスターター部の吸気口に付いたごみは、きれいに掃除してください。エンジンの出力低下や破損の原因となります。

チョークレバー

エンジンが冷えている場合、始動するときに使用します。

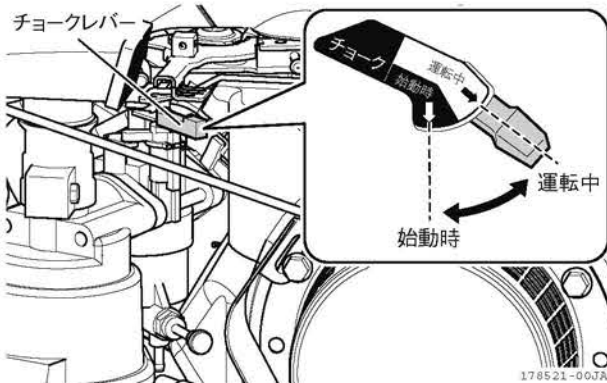


図 2-16 チョークレバー

- ・「運転中」位置：通常の運転時、作業時の位置です。
- ・「始動時」位置：エンジンが冷えているときの始動時の位置です。

【重要】

エンジン停止後すぐに始動するときは、「運転中」位置にしてください。守らないと、エンジンに不具合が生じる場合があります。

燃料遮断レバー

エンジンへの燃料供給、停止の切り替えを行うときに使用します。

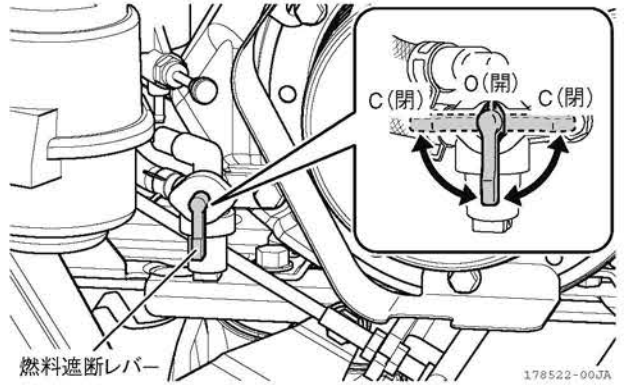


図 2-17 燃料遮断レバー

- ・「O」(開) 位置：燃料がエンジンへ流れます。
- ・「C」(閉) 位置：燃料がエンジンへ流れません。

エンジン始動時、運転時は燃料遮断レバーを「O」(開) 位置に、エンジン停止時は「C」(閉) 位置にします。

ワンタッチキャブドレン

キャブレター内の燃料を抜くときに使用します。

(60 ページの「12章 用語解説」を参照)

キャブドレンを引くと燃料がドレンホースから流れ出ます。

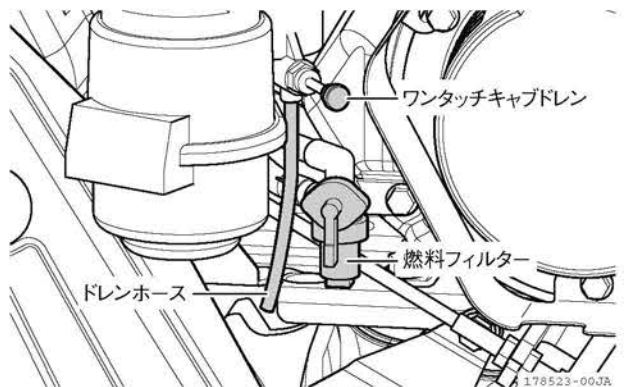


図 2-18 ワンタッチキャブドレン

エアクリナー

エンジンに供給する空気をきれいにします。
定期的に洗浄してください。

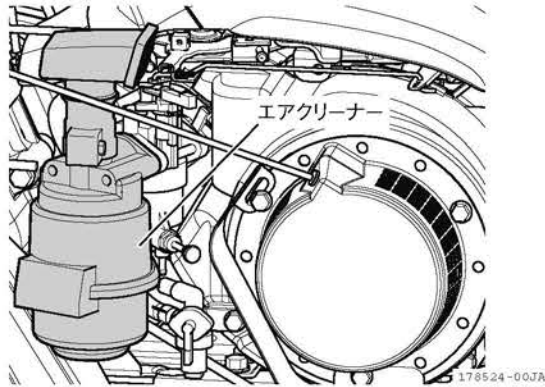


図 2-19 エアクリナー

【参考】

エアクリナーの洗浄のしかたは45ページをご覧ください。

延長シュノーケル

延長シュノーケルをエアクリナーに取り付けて使用します。

エアクリナーの吸気位置を高くすることで、防塵性やエンジンの耐久性を高めます。

吸気キャップは吸気口を前方向（図 2-20）の向きに取り付けます。

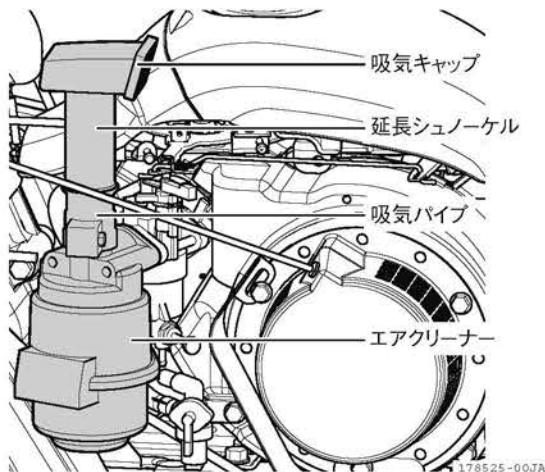


図 2-20 延長シュノーケル

【重要】

1 輪管理機を使用する前に、延長シュノーケルを必ず装着してください。延長シュノーケルを装着しないままエンジンを始動・運転するとエンジンのハンチングや出力不足など不調の原因になります。

作業調節部

ロータリー周辺の調節部について説明します。

尾ソリ

耕うん深さを調節するときに使用します。

- ・ 尾ソリを上げる：耕うん深さが深くなります。
- ・ 尾ソリを下げる：耕うん深さが浅くなります。

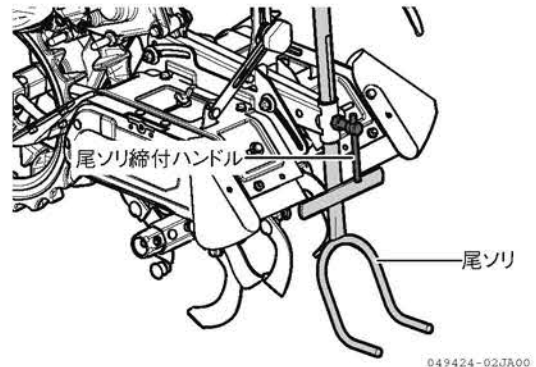


図 2-21 尾ソリ

ゴム板

作業する内容によって調節します。

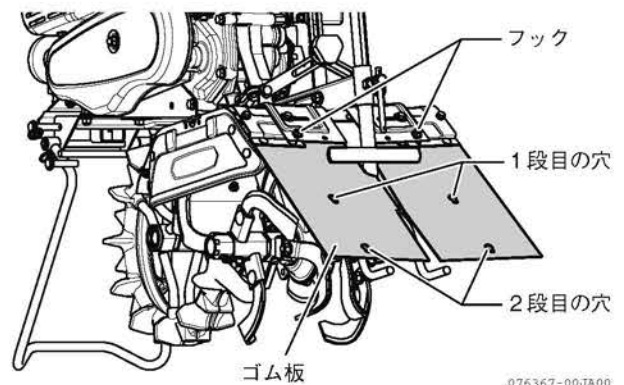


図 2-22 ゴム板

表 2-1 ゴム板穴位置の作業例

穴位置	作業内容
標準	中耕除草
1段目	培土作業
2段目	揚土作業（逆転作業時）

ロータリーカバー

作業に合わせて耕うん幅、角度を調節できます。

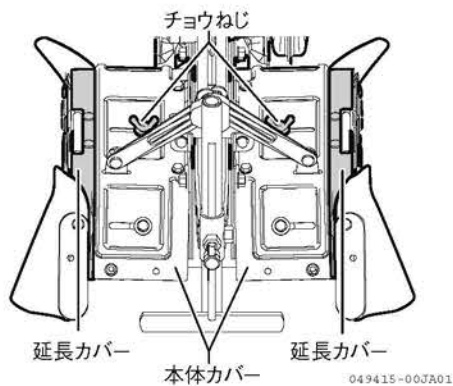


図 2-23 ロータリーカバー

2

運転のしかた

運転前の点検

⚠ 危険

- 燃料補給時は、くわえたばこや裸火照明をしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

【守らないと】

燃料に引火して火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警告

- 点検をするときは、交通の危険がなく、平坦で安定した場所に駐車させ、エンジンを停止してください。
- エアクリーナーのエレメントは、必ず取り付けてから始動・運転をしてください。

【守らないと】

逆火により炎が噴き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- 破損しているカバー類がないか、必ず作業前に確認してください。

【守らないと】

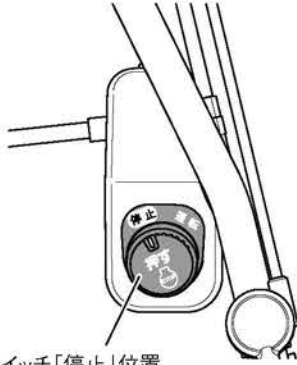
カバー類が破損した状態で使用すると、1輪管理機に巻き込まれ、けがをするおそれがあります。

- 使用前には必ず点検をしてください。特にクラッチ・レバーなどの操縦装置は、確実に作動することを確認してください。作動しないときは、確実に作動するように調整してください。

緊急時の停止方法について

■ エンジンを停止する

エンジンスイッチを押してください。
エンジンが停止します。(図 2-24)



エンジンスイッチ「停止」位置

図 2-24 エンジンスイッチ

178526-00JA

■ 緊急停止ワイヤを動かす

主クラッチレバーが「入」位置のときに緊急停止ワイヤを動かします。

主クラッチレバーが「切」位置に戻り、本機が停止します。(図 2-25)

緊急停止ワイヤを前後上下どの方向に動かしても主クラッチが切れます。

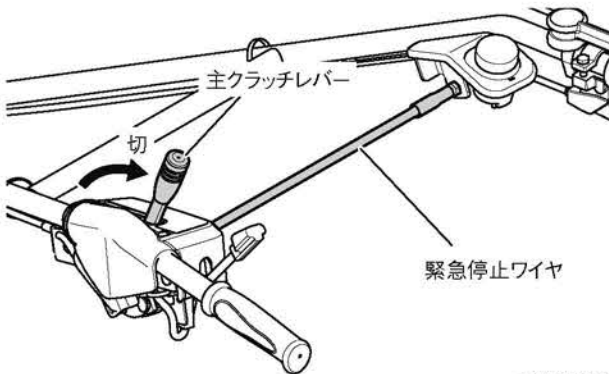


図 2-25 緊急停止ワイヤ

178527-00JA

点検のしかた

運転・作業を行う前に、つぎの点検を行ってください。

表 2-2 点検のしかた

点検箇所	参照ページ
各部の変形・損傷・汚れ・ボルトのゆるみはありませんか。	48
燃料は入っていますか。 燃料漏れ、燃料ホースの損傷はありませんか。	40
エンジンオイルは規定量入っていますか。 エンジンオイルの汚れ、油漏れはありませんか。	42
走行ミッションオイルは規定量入っていますか。 走行ミッションオイルの油漏れはありませんか。	43
エアクリーナーの汚れはありませんか。	45
マフラーなどの過熱部分のほこりやごみはありませんか。	—
配線の被覆のはがれや接続部のゆるみはありませんか。	—
各操作レバー、スイッチの作動状態は正常ですか。	10~14、 46~47
エンジンスイッチを「停止」位置にして、エンジンが停止しますか。	11

エンジンの始動と停止

始動のしかた

⚠ 警告

- エンジンの始動および運転は、閉めきった屋内で行わないでください。やむを得ず屋内で始動、運転する場合は、十分に換気をしてください。
- エンジンを始動する前に、レバーの位置と周囲の安全を確認してください。

エンジン始動前の確認・準備

1. 燃料遮断レバーを「O」(開)位置にします。
(図 2-26)

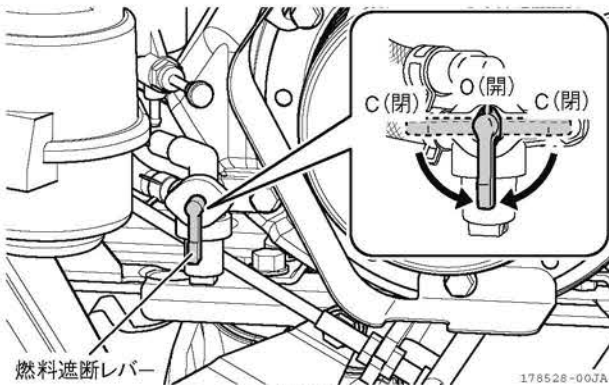


図 2-26 燃料遮断レバー

2. 主クラッチレバーを「切」位置にします。
(図 2-27、図 2-28)

〈YK301SK,S〉

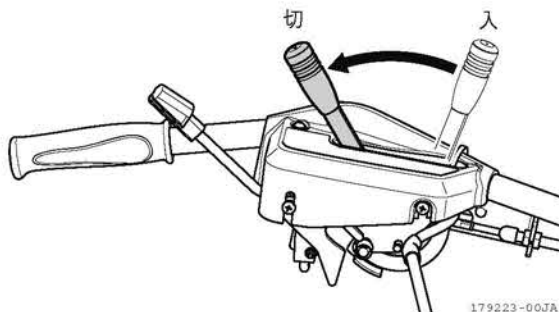


図 2-27 主クラッチレバー (YK301SK,S)

〈YK301SK,H〉

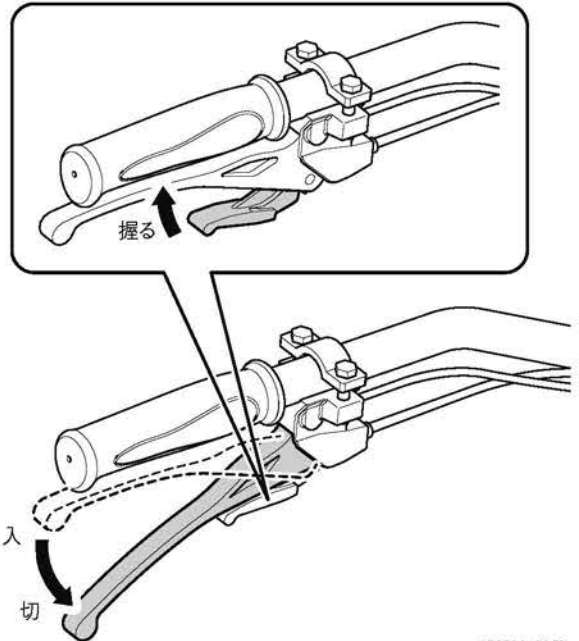


図 2-28 主クラッチレバー (YK301SK,H)

【参考】

主クラッチレバーを「切」位置にしないと、エンジンが始動しません。

3. 走行変速レバーを「N」(中立)位置にします。
(図 2-29)

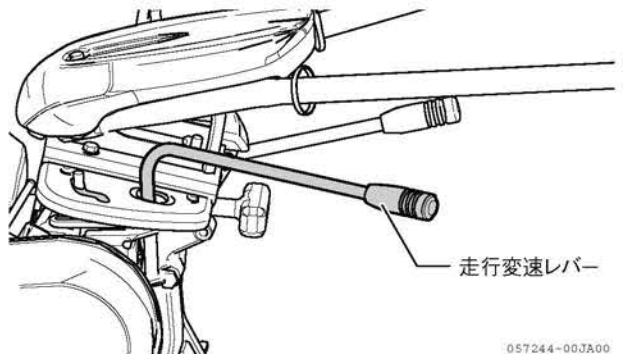


図 2-29 走行変速レバー「N」(中立)位置

4. ロータリー変速レバーを「N」(中立)位置にします。(図 2-30)

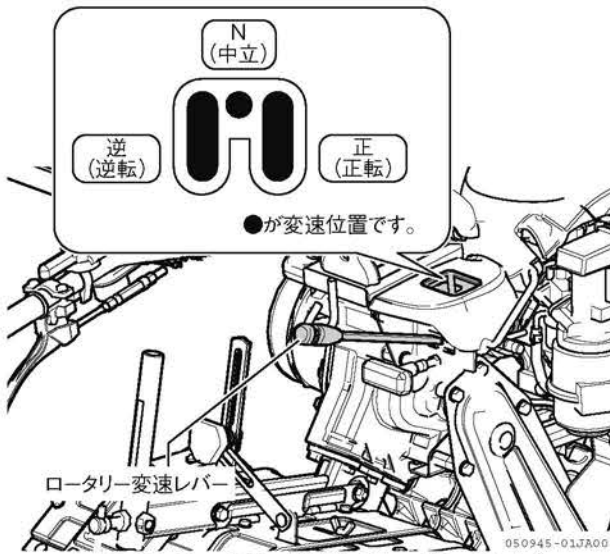


図 2-30 ロータリー変速レバー「N」(中立)

5. アクセルレバーを「始動」位置にします。(図 2-31)

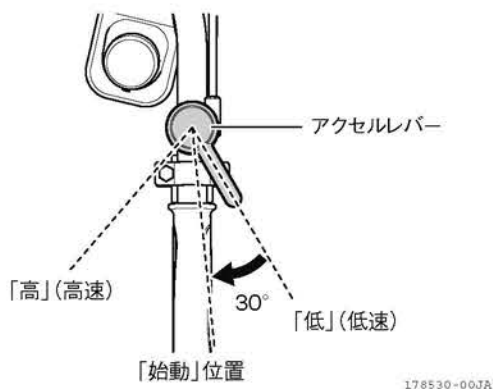


図 2-31 アクセルレバー「始動」

6. チョークレバーを「始動時」位置にします。(エンジンが冷えている場合のみ) (図 2-32)

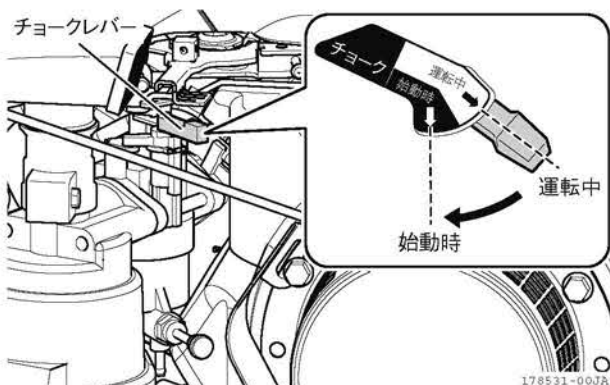


図 2-32 チョークレバー

【重要】

- エンジン始動後は、チョークレバーを確実に「運転中」位置に戻してください。
- エンジン停止後すぐに始動するときは、「運転中」位置にしてください。守らないと、エンジンに不具合が生じる場合があります。

エンジン始動操作のしかた

1. エンジンスイッチを「運転」位置にします。
2. リコイルスターターを引っ張ります。(図 2-33) エンジンが始動したら、リコイルスターターをゆっくりと元に戻します。

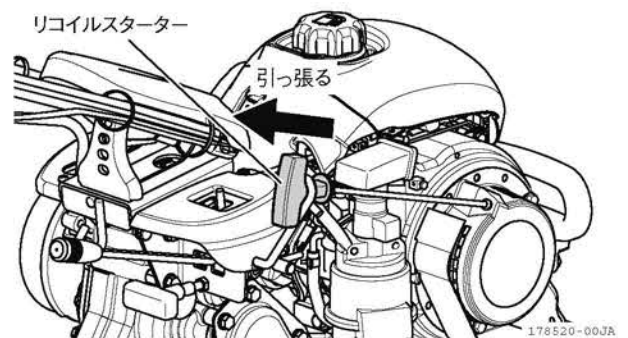


図 2-33 リコイルスターター

3. エンジンの回転状態を見ながらチョークレバーを徐々に「運転中」位置にします。(図 2-34) (エンジンが冷えている場合のみ)

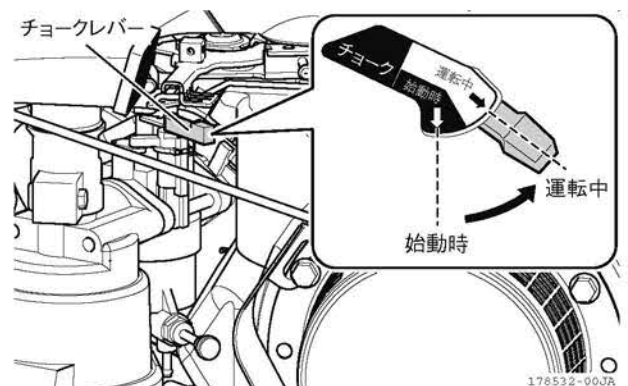


図 2-34 チョークレバー

【重要】

- リコイルスターターを何回も引っ張り続けると、燃料の吸いすぎとなり、始動が困難になります。そのときは、少し時間をおいてから始動してください。
- 運転中は、リコイルスターターを引っ張らないでください。機械が破損する場合があります。

【参考】

リコイルスターターを2~3回引っ張ってもエンジンが始動しないときは、チョークレバーを「運転中」位置にして、再度リコイルスターターを引っ張りま

4. アクセルレバーを「低」側にします。エンジン回転が下がります。
5. 約 5 分間、エンジンをかけたままにしておきます。(暖機運転)

【重要】

冬季など、外気温が低いときは、アイドリング時のエンジン回転が規定よりも低くなり、ハンチング(回転ムラ)を起こす場合があります。

そのような場合は、アクセルレバーを「高」(高速)側と「低」(低速)側の中間位置にして、暖機運転を行ってください。

停止のしかた

エンジン停止のしかた

1. アクセルレバーを「低」側にします。
2. エンジンスイッチを押して、「停止」位置にします。エンジンが停止します。
3. 燃料遮断レバーを「C」(閉)位置にします。

運転操作

1 輪管理機の発進から停車までの操作方法を説明します。

警告

- 移動時は、走行変速レバーを「F1」（低速）、「F2」（高速）、「N」（中立）、「R」（後進）のいずれかの位置にして、ロータリーの爪を回転させずに走行してください。
- 1 輪管理機の上に乗ったり、物を載せたりしないでください。
- 坂道をやむを得ず走行するときは、転倒やスリップに注意し、最低速度で移動してください。このとき、走行変速レバーを「N」（中立）位置にしたまま走行しないでください。
- 溝のある農道や両側が傾斜している農道では、路肩に十分注意してください。
- 坂道や凹凸、カーブの多い場所は低速で移動してください。
- 後進するときは、アクセルレバーを「低」側にし、周囲に十分注意してください。

注意

溝やあぜを横断したり、軟弱な場所を通ったりするときは、エンジン回転を低速にしてください。

発進のしかた

1. 走行変速レバーを希望の位置に入れます。
(図 2-35) (12ページ参照)

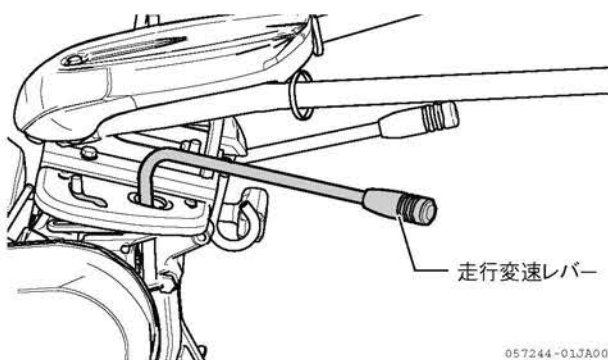


図 2-35 走行変速レバー

2. ロータリー作業をするときは、ロータリー変速レバーを希望の位置に入れます。(図 2-36)

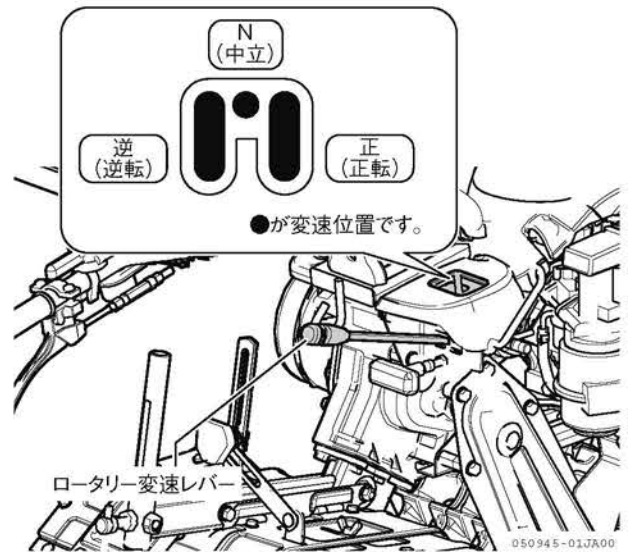


図 2-36 ロータリー変速レバー

3. アクセルレバーでエンジン回転を調整します。

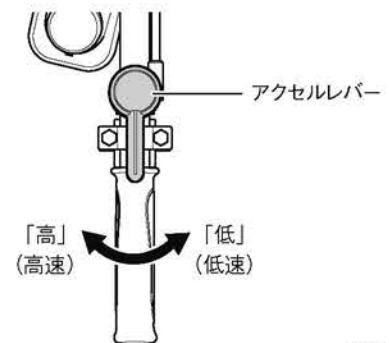
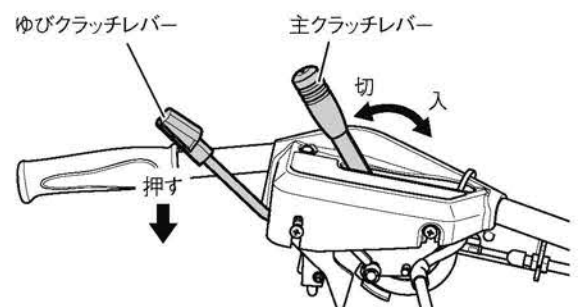


図 2-37 アクセルレバー

4. ゆびクラッチレバーを押し下げます。主クラッチが「入」になり発進します。(図 2-38)



※図は、YK301SK,Sです。

図 2-38 ゆびクラッチレバー

【参考】

- ゆびクラッチレバーを再度押すと、主クラッチは「切」になります。
- 主クラッチレバーでも主クラッチの「入」「切」の操作ができます。

変速のしかた

⚠ 警告

後進時は、アクセルレバーを「低」側にし、周囲に十分注意をして行ってください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1. アクセルレバーを「低」側にします。
2. 主クラッチレバーを「切」位置にして、いったん1輪管理機を停止させます。
3. 以下のレバーを作業内容に適した位置にします。
 - ・ 走行変速レバー（12ページ参照）
 - ・ ロータリー変速レバー（12ページ参照）

【参考】

停止時に走行変速レバーが入りにくい場合は、1輪管理機を前後に動かしてください。レバーが入りやすくなります。

4. 主クラッチレバーを「入」位置にして再発進します。

表 2-3 変速段と主な作業内容

走行変速段数	ロータリー変速段数	主な作業
F1	逆転	揚土・溝上げ
	正転	中耕・除草・培土・播種
F2	正転	中耕・除草・培土
	中立	移動
R (YK301SK,S)	中立	移動(作業はできません)

旋回のしかた

⚠ 注意

- 作業中に旋回するときは、ロータリーの回転を止めてから旋回してください。
【守らないと】
ロータリーが回転していると、回転部に巻き込まれ、けがをするおそれがあります。
- 坂道では、主クラッチレバーを「切」位置にしないでください。また、走行変速レバーを「N」（中立）位置にしないでください。
- 旋回するときは、ハンドルを持ち上げて旋回してください。
【守らないと】
ハンドルを持ち上げずに旋回すると、思わぬけがをするおそれがあります。

1. 主クラッチレバーを「切」位置にします。
2. アクセルレバーを「低」側にします。
3. ハンドル上下レバーで、ハンドル高さを適切な位置に調節します。(図 2-39)

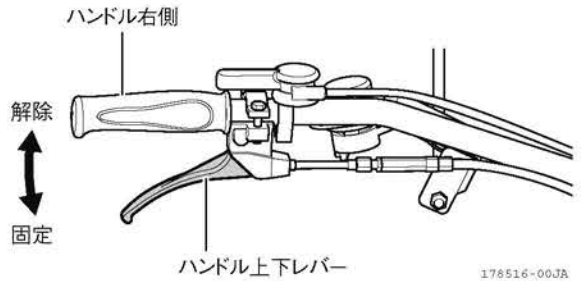


図 2-39 ハンドル上下レバー

4. ロータリー変速レバーを「N」（中立）位置にし、ロータリー回転を止めます。

5. 主クラッチレバーを「入」位置にし、ハンドルを持ち上げ旋回します。(図 2-40)



図 2-40 旋回のしかた

6. 旋回終了後、主クラッチを「切」位置にし、ハンドルとロータリー変速レバーを元の位置に戻します。

停車のしかた

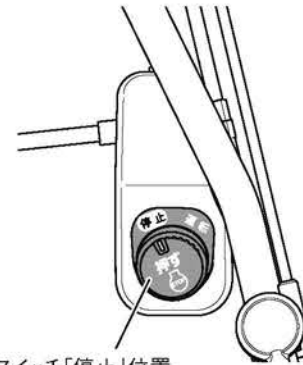
⚠ 注意

平坦で安定した場所に停車し、エンジンを止めてください。

【守らないと】

1 輪管理機が動き出し、けがをするおそれがあります。

1. 主クラッチレバーを「切」位置にします。クラッチが切れ、1輪管理機が停止します。
2. アクセルレバーを「低」側にします。エンジン回転が下がります。
3. 走行変速レバー、ロータリー変速レバーを「N」(中立)位置にします。
4. エンジンスイッチを押して、「停止」位置にします。エンジンが停止します。(図 2-41)

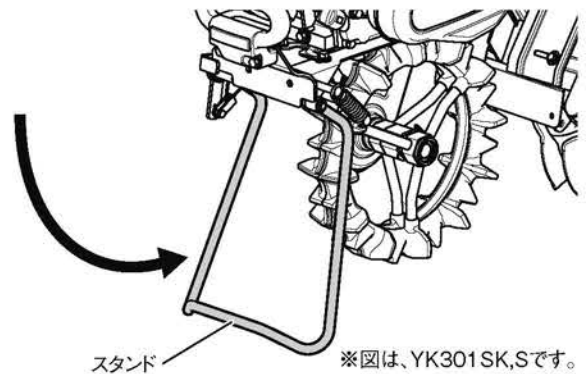


エンジンスイッチ「停止」位置

178526-00JA

図 2-41 エンジンスイッチ「停止」位置

5. スタンドを立てます。(図 2-42)



スタンド

※図は、YK301SK,Sです。
178534-00JA

図 2-42 スタンド

6. 燃料遮断レバーを「C」(閉)位置にします。(図 2-43)

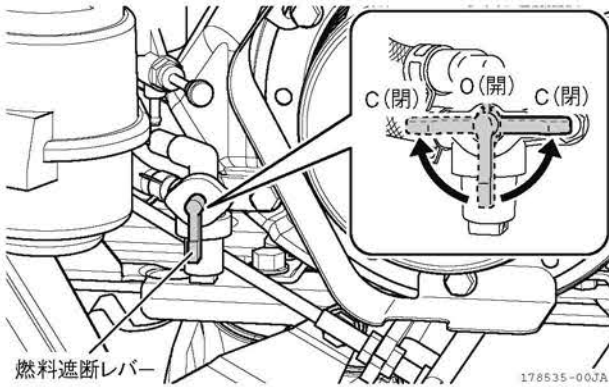


図 2-43 燃料遮断レバー

2

運転のしかた

スタンドの操作のしかた(YK301SK,S)

スタンドの立てかた

1. 23 ページの「停車のしかた」の要領で、1 輪管理機を停止させます。
2. スタンド操作ノブを手前に引いてスタンドを下げます。(図 2-44)



図 2-44 スタンドの立てかた1

3. ハンドル上下レバーを握り、ハンドルを上げます。(図 2-45)



図 2-45 スタンドの立てかた2

4. ハンドルを手前に引きながら押し下げると、スタンドが立てられます。(図 2-46)



図 2-46 スタンドの立てかた3

【参考】

ハンドルを最上段に上げ、尾ソリを踏みながらハンドルを押し下げてもスタンドを立てられます。

スタンドの上げかた(収納)

1. ハンドルを下げます。(図 2-47)



図 2-47 スタンドの上げかた1

2. 1輪管理機を引きます。(図 2-48)



図 2-48 スタンドの上げかた2

3. ハンドルを持ち上げ機体前方を下げると、スタンドが上がります。(図 2-49)



図 2-49 スタンドの上げかた3

3章 作業のしかた

作業前の準備

ハンドル高さの調節のしかた

⚠ 警告

ハンドルの高さを調節するときは、1輪管理機を停止してから行ってください。

【守らないと】

ロータリーが回転したときに、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ハンドルの高さは、作業者に合わせて、4段階に調節することができます。

ハンドル上下レバーを握ったまま、ハンドルを上下に動かし、適切な位置でレバーを離すと、その位置で固定されます。(図 3-1)

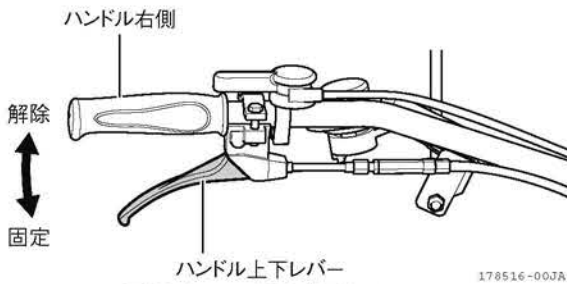


図 3-1 ハンドル上下レバー

3 作業のしかた

ロータリーカバーの調節のしかた

ロータリーカバーの幅を変えるとき

本体カバーと延長カバーを固定している、左右のチョウねじをゆるめると、左右のロータリーカバーの幅を調整できます。

調整後は、チョウねじを締め付けます。(図 3-2)

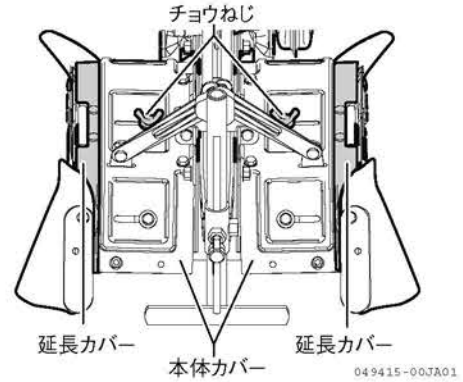


図 3-2 ロータリーカバー幅調整

ロータリーカバーを開閉するとき

1. ロータリー中央部のスイング調整ねじをゆるめます。
2. 左右のロータリーカバーをそれぞれ好みの角度に調整します。(図 3-3)

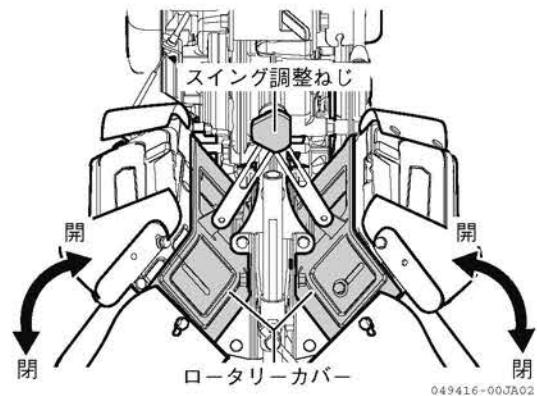


図 3-3 ロータリーカバーの開閉

3. 調整後は、スイング調整ねじで締め付けます。

サイドカバーを開閉するとき

サイドカバーは手で開閉できます。
サイドカバーの開閉は作業に合わせて調節します。
(図 3-4)

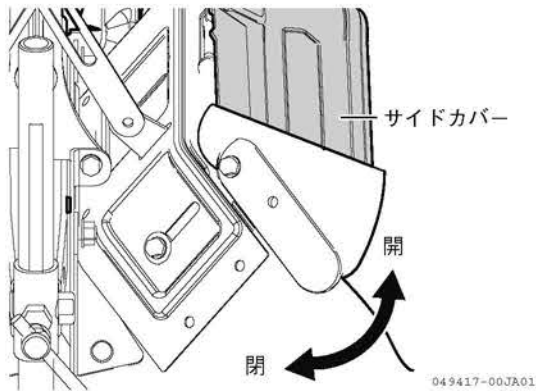


図 3-4 サイドカバーの開閉1

【参考】

サイドカバーの開閉操作が重いときや、サイドカバーの保持力が弱すぎる時は、サイドカバー内側のUナット (M6) の締め具合を調整してください。
(図 3-5)

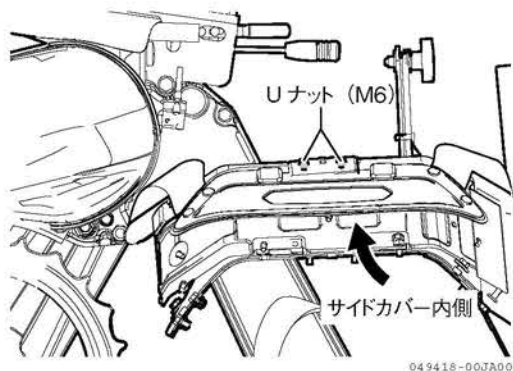


図 3-5 サイドカバーの開閉2

【参考】

Uナットは図の位置のサイドカバー内側にあります。
(図 3-5)

ゴム板の調節のしかた

作業に合わせて、ロータリー後方にある左右のゴム板の調節ができます。
調節するときは、ロータリーカバーのフックにゴム板の穴 (2カ所) を引っ掛けます。

■ 標準位置

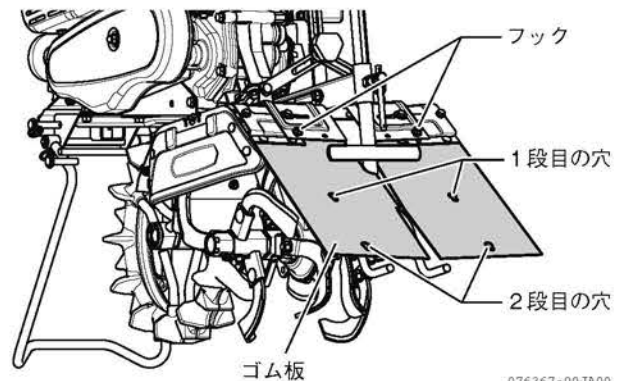


図 3-6 ゴム板 (標準位置)

■ 1段目

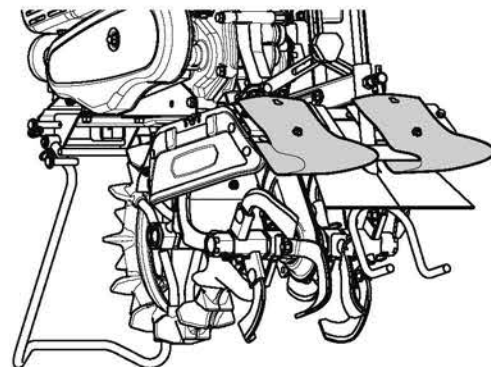


図 3-7 ゴム板 (1段目)

■ 2段目

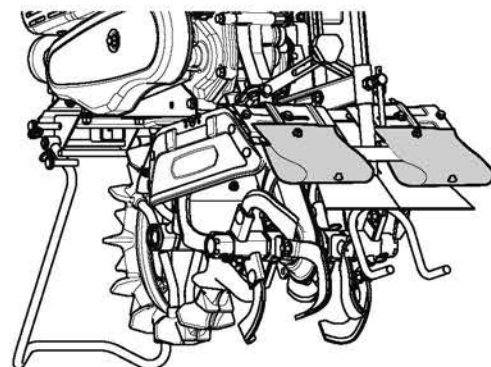


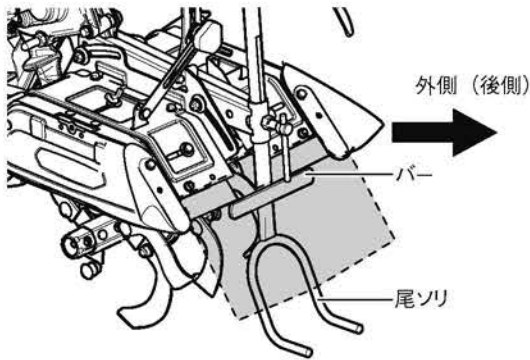
図 3-8 ゴム板 (2段目)

表 3-1 ゴム板の穴位置による作業例

穴位置	作業内容
標準	中耕除草
1段目	培土作業
2段目	揚土作業(逆転作業時)

【重要】

YK301SK,S では、ゴム板が尾ソリについているバーの内側にあると、耕うん爪の巻き込みによりゴム板が破損する原因になります。作業時は、ゴム板が必ずバーの外側(後側)になるようにしてください。内側のゴム板もバーの外側になるようにしてください。(図 3-9)



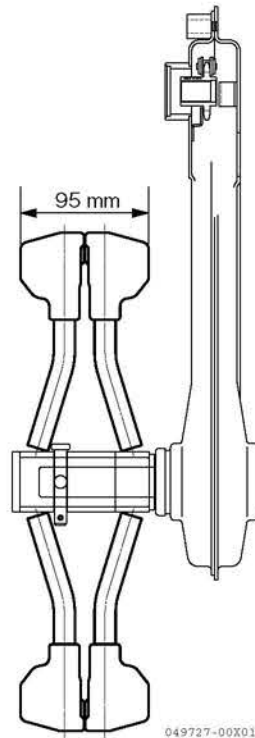
049423-00JA00

図 3-9

車輪幅の調節のしかた(YK301SK,S)

作業に合わせて車輪の外幅を調節します。ゴムラグ車輪を振り替えることで、1輪タイプと2輪タイプが選択できます。車輪幅の調節時には、スタンドを使用してください。(24ページ参照)

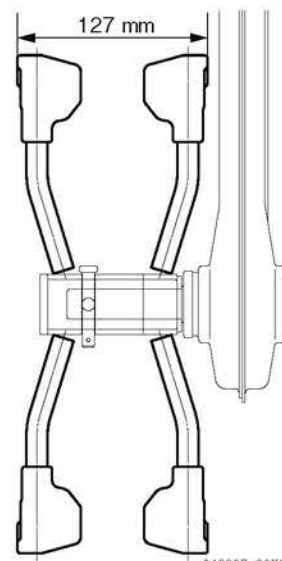
■ 1輪タイプの場合



049727-00X01

図 3-10 ゴムラグ車輪 (1輪タイプ)

■ 2輪タイプの場合



049907-00X03

図 3-11 ゴムラグ車輪 (2輪タイプ)

調節のしかた

■ 1輪タイプから2輪タイプにする場合

1. 車輪のスナップピンを外し、車軸ピンを外します。(図 3-12)
2. ゴムラグ車輪を車軸パイプごと外します。その際、車軸にある平座金は外さないようにします。(図 3-12)

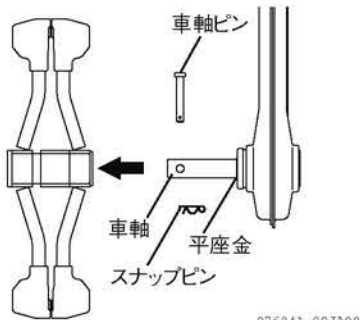


図 3-12

076941-00JA00

3. 車軸パイプを外し、車輪の向きを入れ替えます。(図 3-13)

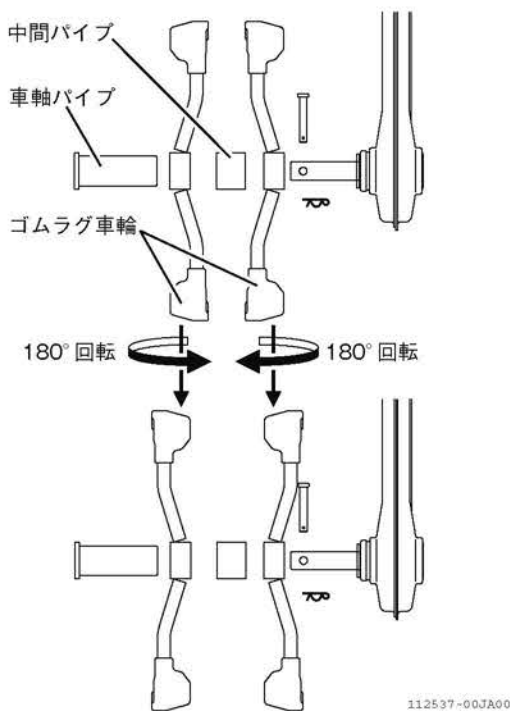


図 3-13

112537-00JA00

4. 車軸パイプにゴムラグ車輪・中間パイプ・ゴムラグ車輪の順番で入れます。

5. ゴムラグ車輪を車軸に入れ、車軸ピンを取り付け、スナップピンを取り付けます。(図 3-14)

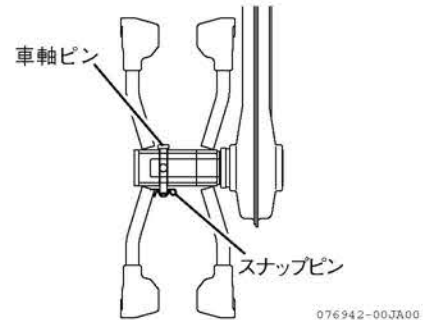


図 3-14

076942-00JA00

■ 2輪タイプから1輪タイプにする場合

2輪タイプから1輪タイプにする場合も同じ手順で行います。

【参考】

車輪と本機部分の間に石がはさまるなど、異常な負荷がかかった場合にはミッション内部を保護するために車軸ピンが切断されることがあります。

作業について

⚠ 警告

- ロータリーの下にもぐったり、足を入れたりしないでください。
【守らないと】
ロータリーが動いたときに傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- ハウス内で作業をするときは、排出ガスが充満しないように、十分に換気を行ってください。
- 作業時以外は、ロータリーの回転を止めてください。特に、作業中に旋回や後進をするときは、必ずロータリーの回転が止まっていることを確認してください。
- マフラーに付着した枯草や、わらは取り除いてください。
【守らないと】
火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- 地面が固かったり、石をかんだり、ロータリーを急に地面に降ろすと、回転する爪の勢いで1輪管理機が思わぬ方向に飛び出すことがあります（ダッシュ現象）。常に主クラッチレバーを「切」位置にできる姿勢で作業をしてください。
- 後進するときは低速で移動し、転倒しないように足元に十分注意してください。後方に障害物がないことを確認して、障害物と1輪管理機の間にはさまれないようにしてください。

耕うん深さの調節のしかた (YK301SK,S)

耕うん深さは、尾ソリを上下させて調整します。

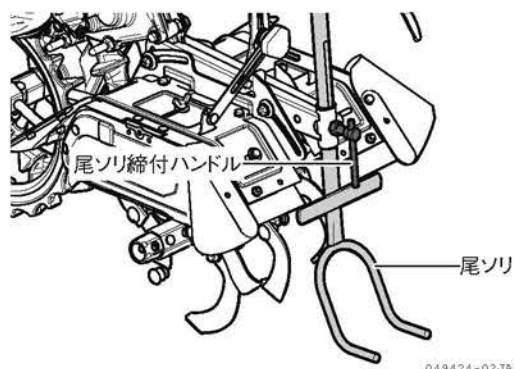


図 3-15 耕うん深さの調節のしかた (YK301SK,S)

1. 尾ソリ締付ハンドルをゆるめます。(図 3-15)
2. 尾ソリを上下して適当な耕うん深さにします。
3. 調整後は、尾ソリ締付ハンドルで固定します。(図 3-15)

ほ場での作業のしかた

1. 走行変速レバーを希望の変速段数の位置にします。
2. ロータリー変速レバーを希望の変速段数の位置にします。
3. アクセルレバーでエンジン回転を調整します。
4. 主クラッチレバーまたはゆびクラッチレバーを操作し、クラッチを「入」位置にして発進します。

爪・爪軸のセットのしかた (YK301SK,S)

爪のセットのしかた

■ 爪の回転方向と爪の向きについて

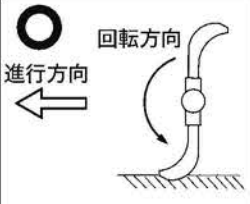
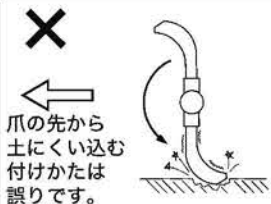
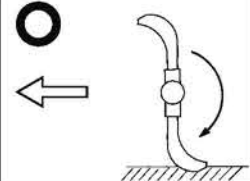
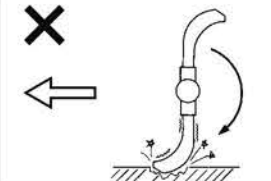
注意

爪の向きと回転方向を間違えないように注意してください。

【守らないと】

間違えると思わぬけがをするおそれがあります。

表 3-2 爪の向きと爪の取り付けかた

	正しい付けかた	間違った付けかた
正転作業		 爪の先から土にくい込む付けかたは誤りです。
逆転作業		

爪軸の取り付けかた

爪軸パイプと爪軸の取付方向により、表 3-3 の耕うん幅が選べます。爪軸は、爪軸取付ピンを抜くと、耕うん軸から抜き取れます。(図 3-16)

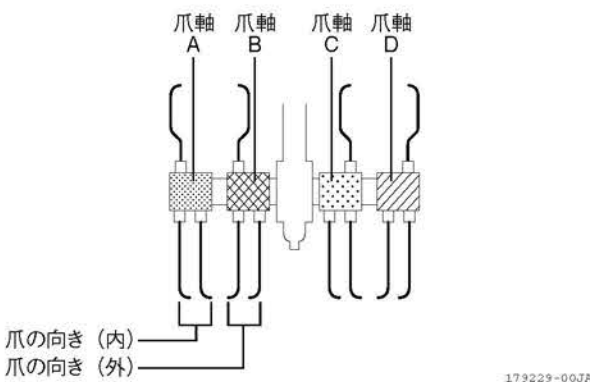


図 3-16 爪軸の取り付けかた

表 3-3 耕幅の一例 (数値は目安です)

耕幅	セット状態	爪軸パイプ	爪の向き				耕幅 (mm) ※2	残耕 (mm)	
			爪軸 A	爪軸 B	爪軸 C	爪軸 D			
狭	爪軸28のみ使用	38	-	外	外	-	170	30	
			-	内	内	-	175	35	
	爪軸58のみ使用	128	-	外	外	-	220	40	
			-	内	内	-	235	50	
爪軸28は内側 爪軸58は外側	128	128	外	外	外	外	285 (335)	30	
			内	内	内	内	300 (350)	35	
			※1内	※1外	※1外	※1内	300	30	
			外	外	外	外	300 (350)	40	
広	爪軸28は外側 爪軸58は内側	128	128	128	128	128	128	305 (355)	50

※1. 出荷時のセット状態。

※2. く)内は爪軸ピン位置の変更時。

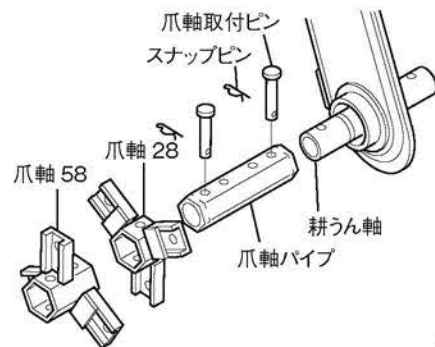


図 3-17 爪軸の取り付けかた

〈狭幅の場合〉
爪軸パイプ38を使用します。(付属品)



図 3-18 狭幅の場合

〈広幅の場合〉
爪軸パイプ128を使用します。

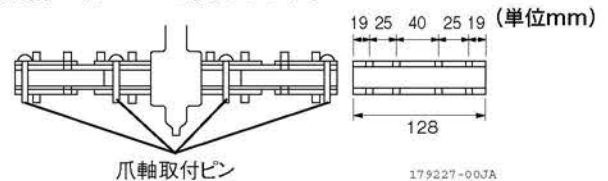


図 3-19 広幅の場合

取付用部品	個数
爪軸取付ピン	4
スナップピン	4

爪の配列

爪軸の取り付けは、爪軸58と爪軸28の偏心爪が対角(A・B)になるように取り付けてください。(図 3-20)

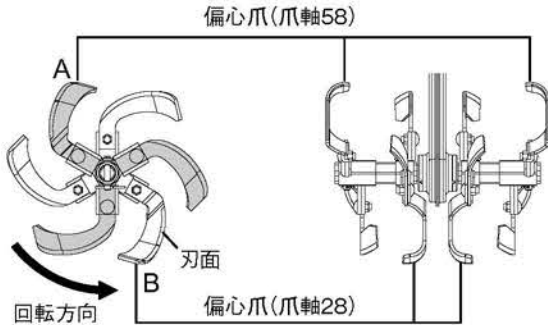


図 3-20 爪の配列

爪軸の左右は同時打ち(左右対称)になるように、取り付けてください。

3

作業のしかた

正転・逆転時の爪軸の入れ替えかた

爪軸を入れ替えることにより、さまざまな作業ができます。変更の方法は大きく分けてつぎの4種類があります。

■ 耕うん作業(出荷状態)

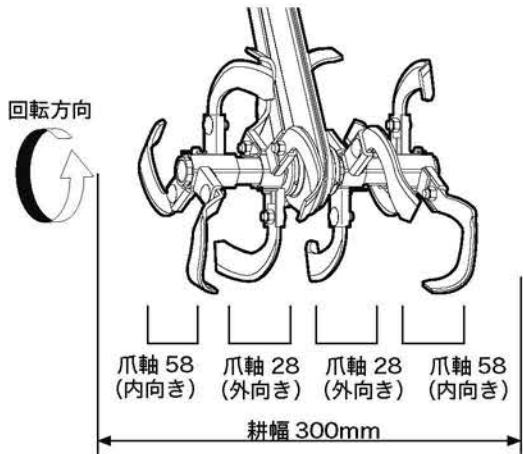


図 3-21 耕うん作業 (出荷状態)

■ 逆転外向き(1)

1. 「耕うん作業(出荷状態)」の状態から内側の爪軸28を左右入れ替えて爪軸58と、爪軸28の爪の向きを同じ方向にします。(図 3-22)
2. 爪軸パイプごと180° 反転して取り付けます。(図 3-22)

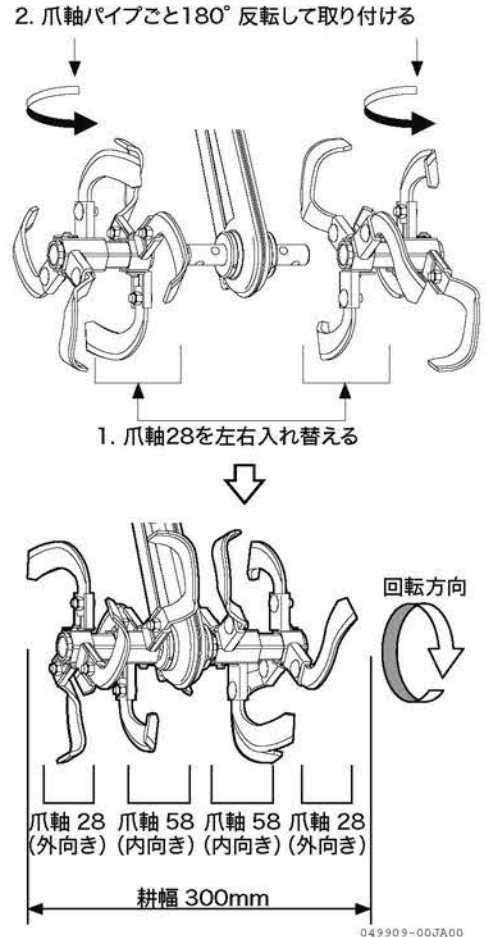


図 3-22 逆転外向き (1)

■ 逆転外向き (2)

1. 「逆転外向き (1)」の状態から、左右それぞれの爪軸58を外側にし、爪軸28を内側にします。(図 3-23)

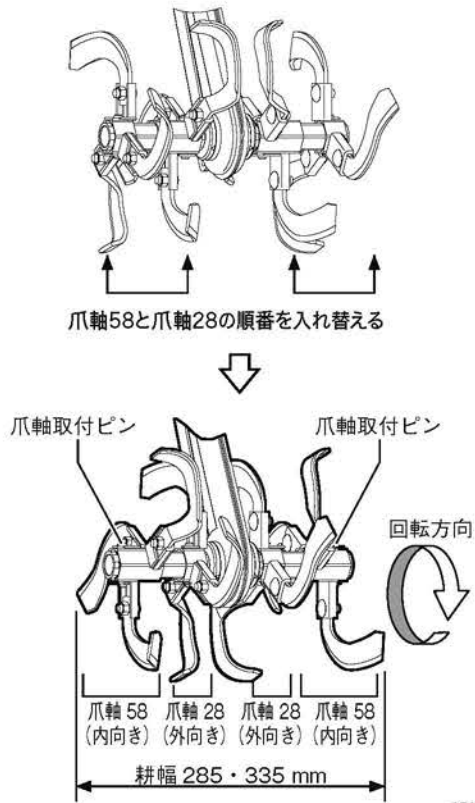


図 3-23 逆転外向き (2)

2. 爪軸 58 の取付ピン位置を変更することにより、耕幅の変更ができます。(図 3-23)

■ 正転外向き

1. 「耕うん作業 (出荷状態)」の状態から、それぞれの爪軸58を左右入れ替えます。(図 3-24)

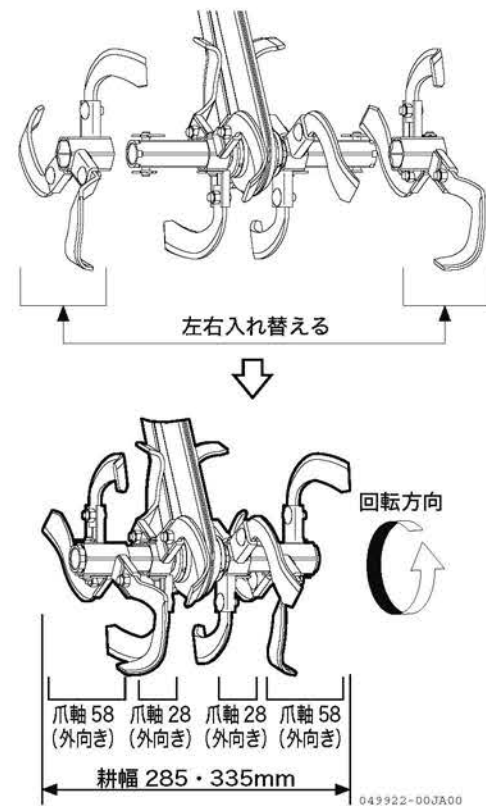


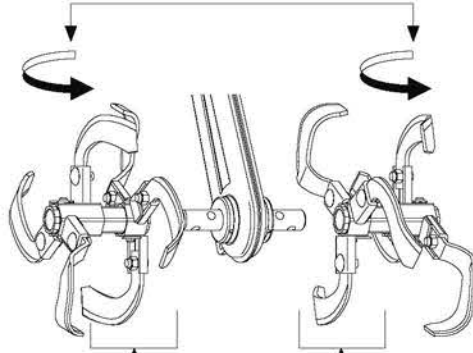
図 3-24 正転外向き

2. 爪軸 58 の取付ピン位置を変更することにより、耕幅の変更ができます。(図 3-24)

■ 逆転内向き

1. 「耕うん作業（出荷状態）」の状態から、爪軸28を左右入れ替えて爪軸58と爪軸28の爪の向きを同じ方向にします。（図 3-25）
2. 爪軸パイプごと180° 反転して、左右入れ替えて取り付けます。（図 3-25）

2. 爪軸パイプごと180° 反転して、左右入れ替える



1. 爪軸28を左右入れ替える

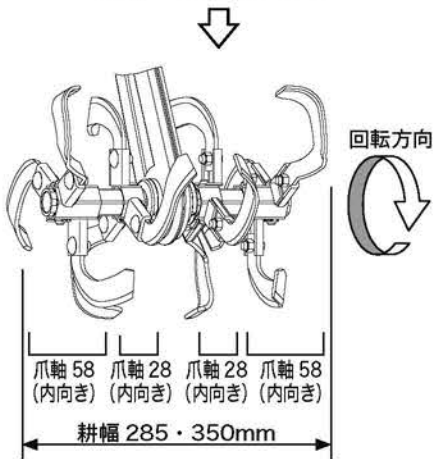


図 3-25 逆転内向き

3. 爪軸 58 の取付ピン位置を変更することにより、耕幅の変更ができます。（図 3-25）

【参考】

表 3-4 爪の配列と主な作業

状態	主な作業	耕幅(mm)
1 耕うん作業 (出荷状態)	中耕・除草 培土・播種	300
2 逆転外向き(1)	揚上・溝上げ	300
3 逆転外向き(2)	揚上・溝上げ	285・335
4 正転外向き	中耕・除草 培土・播種	285・335
5 逆転内向き	中耕・除草 (地面が固い場合など)	285・350

4章 お手入れのしかた

作業後の手入れについて

作業後の手入れのしかた

⚠ 注意

- 爪の手入れ・洗浄は、必ずエンジンを停止し、手袋を着用して行ってください。
【守らないと】
けがをするおそれがあります。
- リコイルスターター部の吸気口は、エンジンの冷却風を吸い込むところです。
【守らないと】
きれいに掃除しないと、エンジンが過熱しやけどをするおそれがあります。

作業後はその日のうちに水洗いし、水洗い後は水分をよくふき取って、各回転・摺動部に適量注油してください。

爪や爪軸、ロータリーカバー内に付着した土は、きれいに洗い取ってください。

また、爪軸に草などが巻き付いていたら、取り除いてください。(図 4-1)

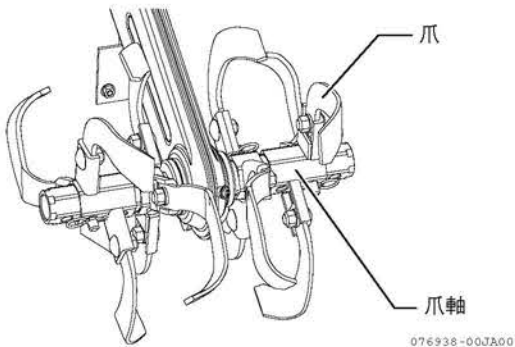


図 4-1 爪と爪軸

【重要】

- 水洗いをするときは、エアクリーナーの吸気口やキャブレターに水が入らないようにしてください。(図 4-2)
- リコイルスターター部の吸気口に付いたごみは、きれいに掃除してください。エンジンの出力低下や破損の原因になります。(図 4-2)

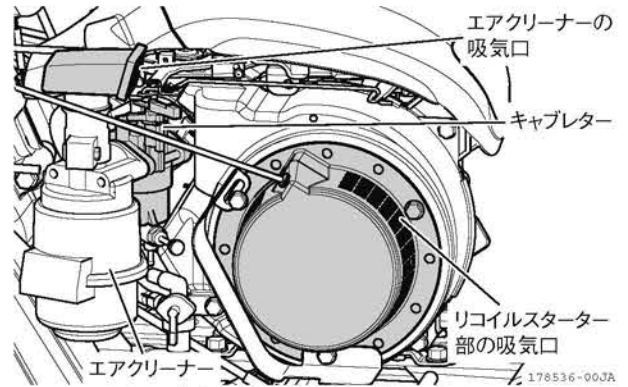


図 4-2 お手入れのしかた

各部の注油箇所

⚠ 注意

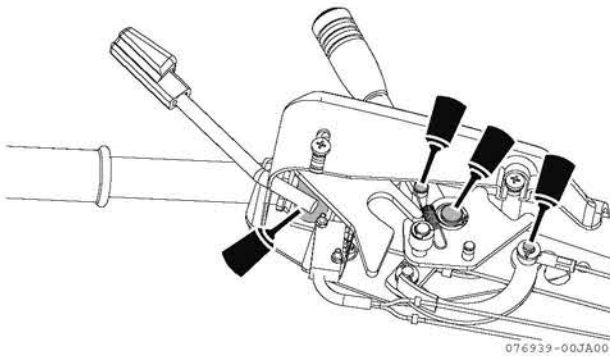
回転部へ注油するときは、必ずエンジンを停止して行ってください。

【守らないと】
けがをするおそれがあります。

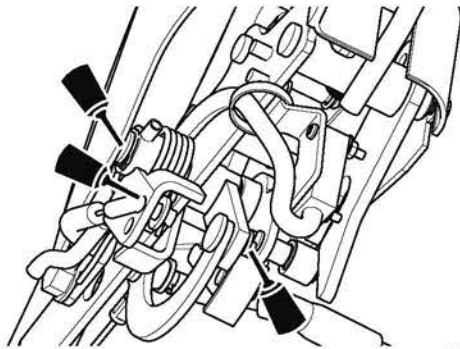
〈凡例〉

注油位置:  注油位置  グリス位置

■ 主クラッチレバー支点 (YK301SK,S)



076939-00JA00

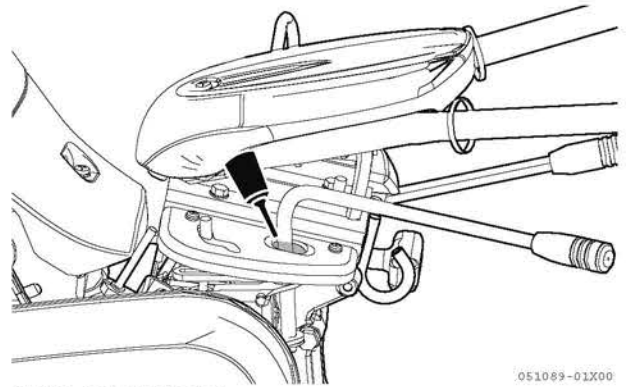


178537-00X

※下から見た図です。

図 4-3 主クラッチレバー支点 (YK301SK,S)

■ 走行変速レバー支点

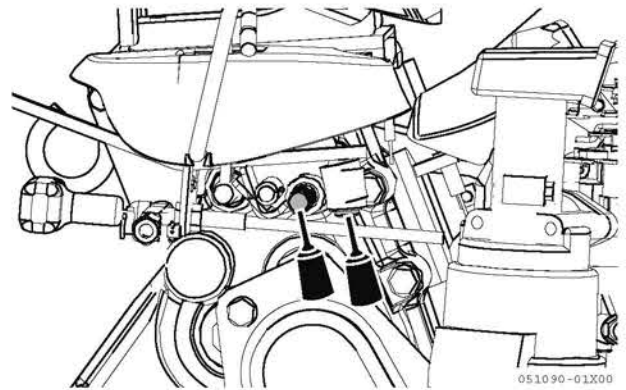


051089-01X00

※下から見た図です。

図 4-4 走行変速レバー支点

■ ロータリー変速レバー支点



051090-01X00

図 4-5 ロータリー変速レバー支点

■ テンションアーム支点

ベルトカバーを外します。

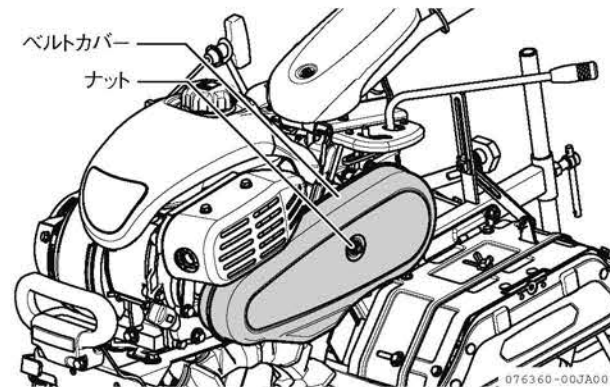


図 4-6 ベルトカバー

注油箇所

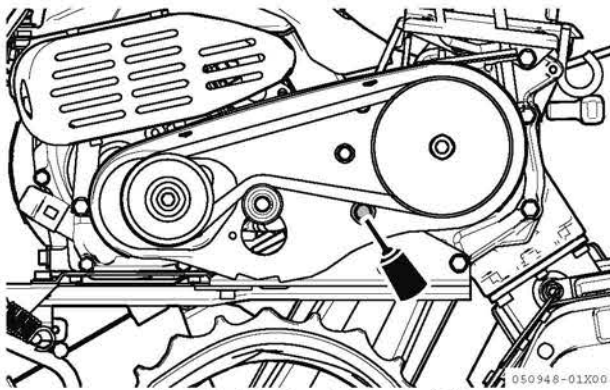


図 4-7 テンションアーム支点

【重要】

ベルトに油がかからないように注意してください。

■ ハンドル上下ピン

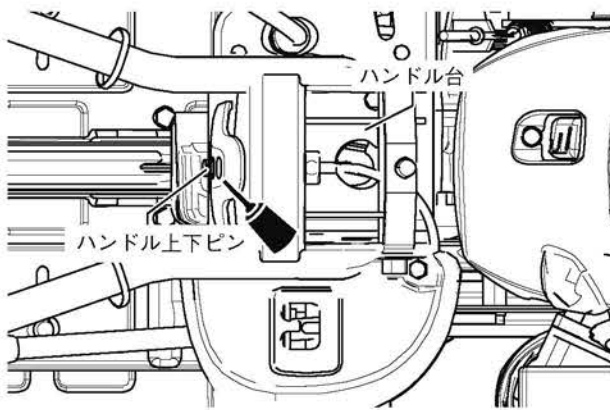


図 4-8 ハンドル上下ピン

■ 走行ケース

走行ケースのキャップを外し、中のチェーンにグリスを塗布します。

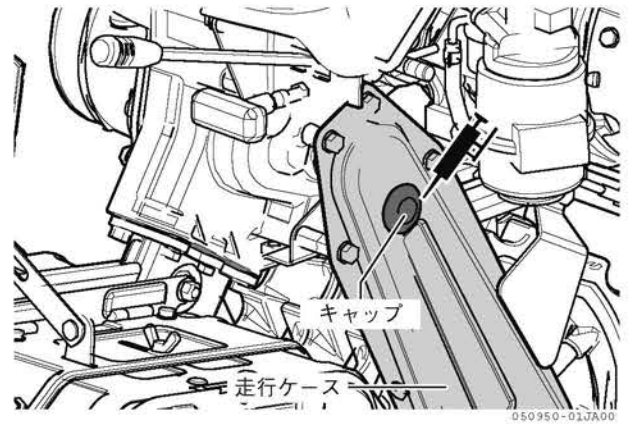


図 4-9 走行ケース

点検・整備のしかた

点検・整備の前には、同梱の「安全に作業をするために ヤンマー管理機・ミニ耕うん機」をよくお読みください。

⚠ 警告

- 作業者および補助者は作業に適した服装をしてください。
【守らないと】
思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 点検・整備時は、1輪管理機を平たんで安定した場所に駐車し、エンジンを停止してください。また、手袋を着用してください。
- 室内で点検・整備をするときは、換気を十分に行ってください。
【守らないと】
エンジンの排出ガスで中毒を起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- 機械の摩耗などで角部が鋭利になっている場合、人が触れてけがをするおそれがあります。始業前に確認してください。また、鋭利部を見つけたらお買い上げいただいた特販店またはJAに修理をご依頼ください。
- ゴムホース類は、時間がたつと劣化します。2年ごとに交換してください。
【守らないと】
燃料が漏れて火災が起こり、けがをするおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、高温部分が十分に冷めてから行ってください。
【守らないと】
やけどをするおそれがあります。
- カバーを外して点検・整備したときは、必ずカバーを元通りに取り付けてください。
【守らないと】
元通りに取り付けないと、回転部に巻き込まれるなど、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

【重要】

専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、お買い上げいただいた特販店またはJAにご相談ください。

定期点検・整備の時期について

定期点検や整備は、農閑期に行うと、農繁期に1輪管理機の性能が十分に発揮され、安全で快適な作業が行えます。1輪管理機の整備不良による事故などを未然に防止するために、1年ごとに整備工場で定期点検整備を受け、各部の保安を確認してください。特に燃料ホースやゴムホース類は2年ごとに交換し、電気配線は毎年点検するようにして、常に1輪管理機を最良の状態安心して作業が行えるようにしてください。

定期点検一覧表

表 4-1 定期点検一覧表

点検・調節箇所	点検・交換時期	内容	参照ページ
エンジンオイル	作業前に点検 1回目:25時間目に交換 2回目以降:50時間ごとに交換	規定量:0.4 L エンジンオイル(ガソリンエンジン用) API分類:SE級以上 SAE分類:10W-30番	42
走行ミッションオイル	1回目:50時間目に交換 2回目以降:100時間ごとに交換	規定量:1.2 L ミッションオイル90番	43
エアクリーナーエレメント オイルバスのオイル	作業前に点検	灯油で洗浄、または交換 エンジンオイル(ガソリンエンジン用)の補給	45
燃料フィルターエレメント	作業前に点検	ストレーナーカップ・フィルターの掃除	45
主クラッチレバー・ベルト	作業前に点検	クラッチ「入」時、指でベルト中央部を押したときの たわみ量:約15 mm	46
ハンドル上下レバーワイヤ	作業前に点検	レバーの遊び量:約1~3 mm	47
Vベルト	作業前に点検	損傷、亀裂がない	-
耕うん爪	作業前に点検	耕うん爪の摩耗率が約60 %以下になったときに交換	48
点火プラグ	50時間ごとに点検	火花ギャップ(電極すきま):0.7 mm	49
エンジン取付ボルト	作業前に点検	増締め	48
耕うん爪取付ボルト	作業前に点検	増締め	48
走行ケース取付ボルト およびナット	作業前に点検	増締め	48
燃料ホース、電気配線	作業前に点検	燃料ホースとその結合部の点検、 電気配線の被覆はがれや傷の点検	51

燃料の点検・補給・排出のしかた

⚠ 危険

- 燃料補給時は火気厳禁です。
燃料は引火しやすいため、火災や爆発のおそれがあります。
 - ・ エンジンを必ず止めて燃料補給をしてください。
 - ・ たばこなどの火気を近づけないでください。
 - ・ こぼれた燃料は必ずふき取ってください。
- エンジン回転中やマフラーが熱い間は給油をしないでください。
【守らないと】
火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 規定量を守ってください。
【守らないと】
入れすぎると燃料キャップからガソリンがあふれ、こぼれたガソリンに引火して火災が起こり、やけどや死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 燃料補給をする前に、機械などの金属部分に触れて、身体の静電気を放電してください。
【守らないと】
静電気の放電による火花が気化したガソリンに引火して火災や爆発が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 燃料は、燃料フィルターを通して補給してください。
【守らないと】
ごみなどが詰まり、燃料が漏れて火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警告

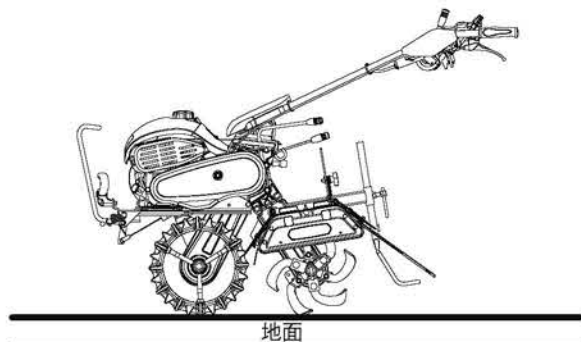
燃料の補給をしたときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。
【守らないと】
やけどや火災を引き起こすおそれがあります。

【重要】

ガソリンは、絶対に河川や下水道などに流さないでください。環境汚染につながります。
ガソリンの処分は、特販店またはJAへご相談ください。

燃料の点検・補給のしかた

1. 爪、車輪が接地した状態にします。(図 4-10)



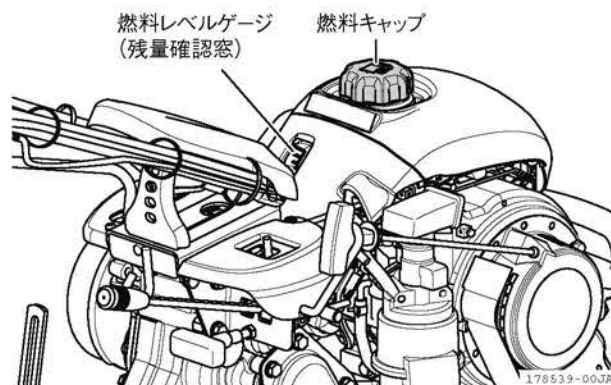
178538-00JA

図 4-10 爪、車輪接地状態

【参考】

1輪管理機が安定しない場合は、スタンドを使用してください。

2. 燃料キャップを外し、燃料フィルターにごみが詰まっていないか点検します。(図 4-11)



178539-00JA

図 4-11 燃料キャップと燃料レベルゲージ

3. 燃料タンク後の燃料レベルゲージで、燃料の残量を点検します。(図 4-12)

4. 不足している場合は、燃料レベルゲージの上限を超えないように補給します。この位置が規定量です。(図 4-12)

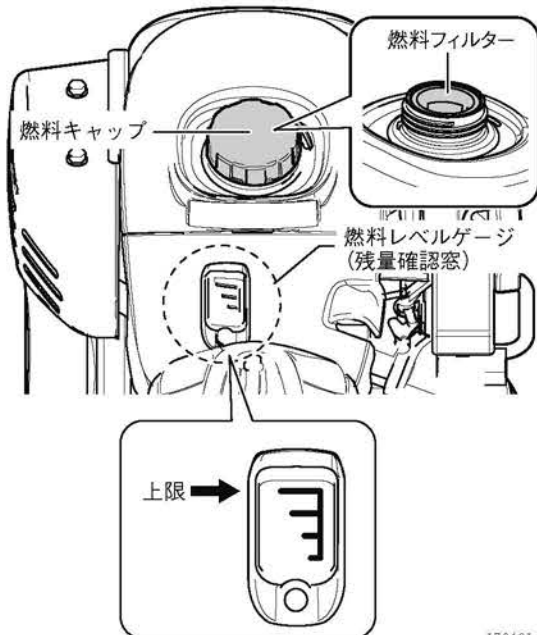


図 4-12 燃料の残量確認

【重要】

- 点検時に、燃料漏れのないことも確認してください。
- 自動車用無鉛ガソリン（レギュラーガソリン）を使用してください。
混合ガソリンや軽油・灯油、または粗悪なガソリンなどを補給したり、不適切な燃料添加剤を使ったりすると、エンジンの故障につながります。
- ガソリンは自然劣化します。ご購入後1カ月以上保管したガソリンは使用しないでください。
- 燃料を規定量以上入れた場合は、すみやかに規定量になるまで燃料を抜いてください。

燃料タンク内の燃料の抜きかた

1. 燃料遮断レバーを「C」（閉）位置にします。
2. 燃料フィルター下部の四角部を工具（10 mm）でゆるめて、燃料フィルターのカップを外します。(図 4-13)

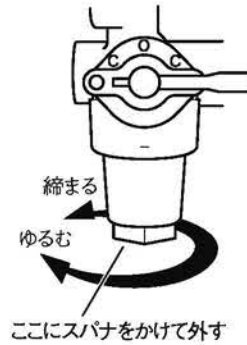


図 4-13 燃料フィルター（カップ）

3. 燃料フィルターの下に容器を置き、燃料遮断レバーを「O」（開）位置にします。燃料タンク内の燃料が抜けます。
4. 燃料が全部抜けきったら、燃料遮断レバーを「C」（閉）位置にし、燃料フィルターにカップを取り付けます。

キャブレター内の燃料の抜きかた

1. 燃料遮断レバーを「C」（閉）位置にします。
2. ドレンホースの下に容器を置きます。
3. ワンタッチキャブドレンを引きます。キャブレター内の燃料がホースから出てきます。(図 4-14)
4. ホースから燃料が全部抜けきったら、ワンタッチキャブドレンを放します。(図 4-14)

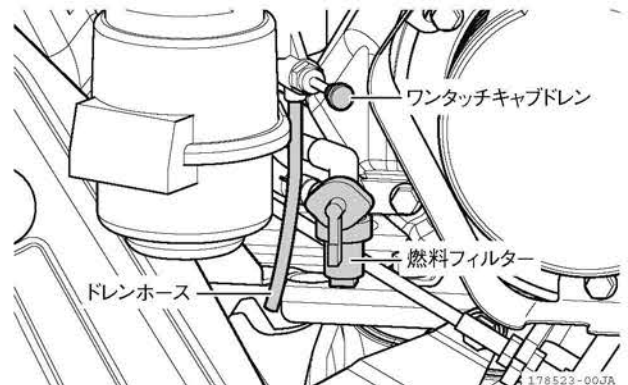


図 4-14 燃料の抜きかた

オイルの点検・交換のしかた

注意

オイルの点検・交換・補給でこぼれたオイルは必ずふき取ってください。

【守らないと】

滑って転倒し、けがをするおそれがあります。

【重要】

オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。環境汚染につながります。廃油の処分は、特販店またはJAへご相談ください。

エンジンオイル

表 4-2 エンジンオイルの規定量

規定量(目安量)	0.4 L(0.35 L)
----------	---------------

エンジンオイルの点検・補給・交換は、エンジンを水平な状態にしてから行ってください。(図 4-15)

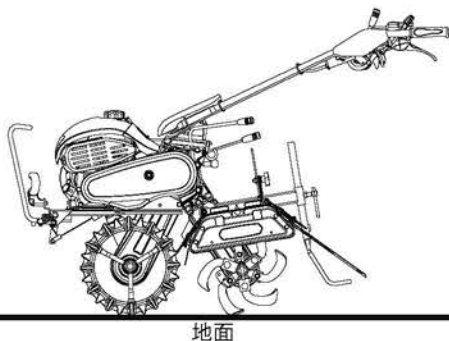


図 4-15 エンジンの水平状態

【参考】

1輪管理機が安定しない場合は、スタンドを使用してください。

■ 点検のしかた

1. 潤滑油補給口のふたを外して、先端の検油棒のエンジンオイルをきれいにふきます。(図 4-16)
2. 潤滑油補給口のふたを潤滑油補給口に差し込み(ねじ込まない)、もう一度抜き出します。(図 4-16)

【重要】

エンジンオイルの量を確認するときは、潤滑油補給口のふたを、ねじ込まずにいっぱいまで差し込んでください。

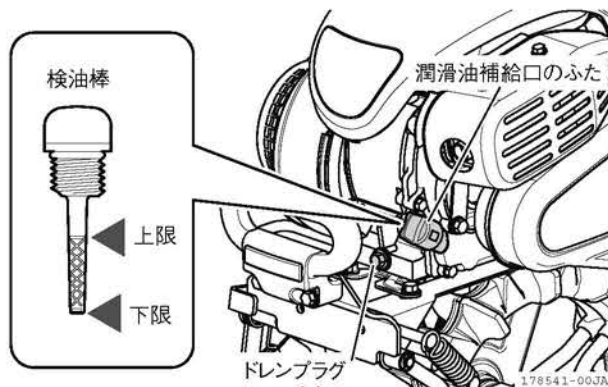


図 4-16 点検のしかた

3. エンジンオイルが検油棒の上限と下限の間にあることを確認します。
4. 点検後、潤滑油補給口にふたを取り付けます。

【参考】

- 点検時、エンジンオイル漏れのないことも確認してください。
- 潤滑油補給口のふたと検油棒は一体式です。

■ 補給のしかた

エンジンオイルが不足している場合は、油面が検油棒の上限の位置になるまで、潤滑油補給口から補給します。

【重要】

- 補給するエンジンオイルは、必ず指定オイルを使用してください。

表 4-3 エンジンオイルの等級

エンジンオイル (ガソリンエンジン用)	API分類:SE級以上 SAE分類:10W-30番
------------------------	------------------------------

- エンジンオイルを規定量以上入れた場合は、すみやかに規定量になるまでエンジンオイルを抜いてください。

■ 交換のしかた

1. エンジン側面にあるドレンプラグの下に、古いエンジンオイルを受ける容器を置きます。
2. ドレンプラグを工具で外します。古いエンジンオイルが流れ出てきます。(図 4-17)

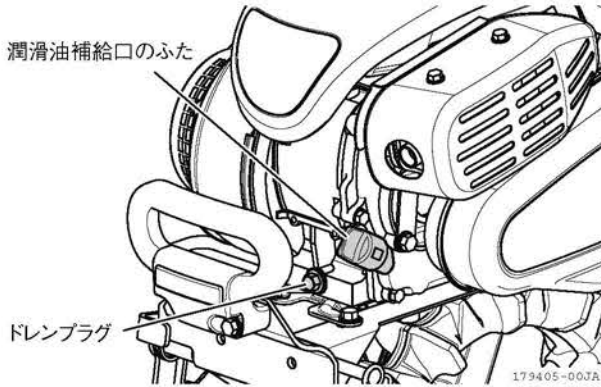


図 4-17 交換のしかた

【参考】

潤滑油補給口のふたを外すと、エンジンオイルが抜けやすくなります。

3. 古いエンジンオイルが抜けきったら、ドレンプラグを元通りに取り付けます。
4. 潤滑油補給口からエンジンオイルを給油します。

【参考】

エンジンオイルが完全に抜けきらず、規定量給油できない場合があります。こぼれないように給油してください。

5. 油面が検油棒の上限の位置になるまで給油し、潤滑油補給口のふたを元通りに取り付けます。

走行ミッションオイル

表 4-4 ミッションオイルの規定量

規定量	1.2 L
-----	-------

■ 点検のしかた

1. 爪と車輪を接地させます。(図 4-18)

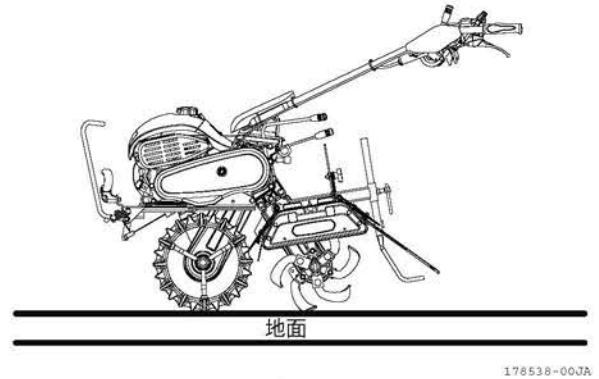


図 4-18 オイル点検・交換時の水平状態

2. 潤滑油補給口のふたを外して、潤滑油補給口の口元までミッションオイルがあることを確認します。
潤滑油補給口の口元までミッションオイルがあれば規定量です。(図 4-19)

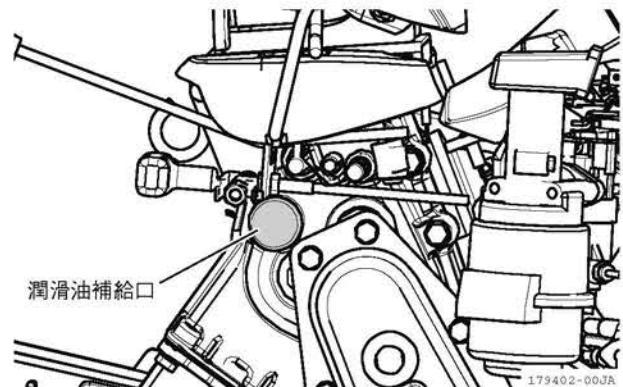


図 4-19 走行ミッションの潤滑油補給口

【参考】

点検時にオイル漏れのないことも確認してください。

■ 補給のしかた

ミッションオイルが不足している場合は、潤滑油補給口から潤滑油補給口の口元まで補給します。

表 4-5 ミッションオイルの種類

ミッションオイル90番

【重要】

ミッションオイルを規定量以上入れた場合は、すみやかに規定量になるまでミッションオイルを抜いてください。

■ 交換のしかた

1. スタンドを立て 1 輪管理機を安定させて行います。
2. 爪軸を外し、ミッションケース下部にあるドレンプラグの下に、古いミッションオイルを受ける容器を置きます。(図 4-20)

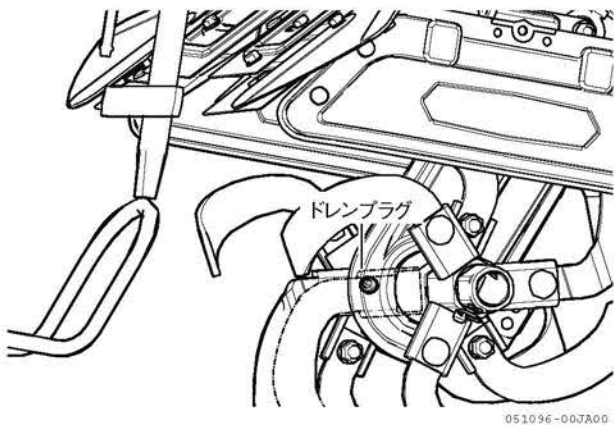


図 4-20 交換のしかた

3. ドレンプラグを工具で外します。
古いミッションオイルが流れ出てきます。

【参考】

- 潤滑油補給口のふたを外すと、ミッションオイルが抜けやすくなります。
 - 走行ミッションオイルが温かいうちに抜くと、容易にミッションオイルを抜くことができます。
4. 古いミッションオイルが抜けきったら、ドレンプラグを元通りに取り付けます。
 5. 潤滑油補給口からミッションオイルを規定量給油します。

6. 潤滑油補給口のふたを元通りに取り付けます。(図 4-21)

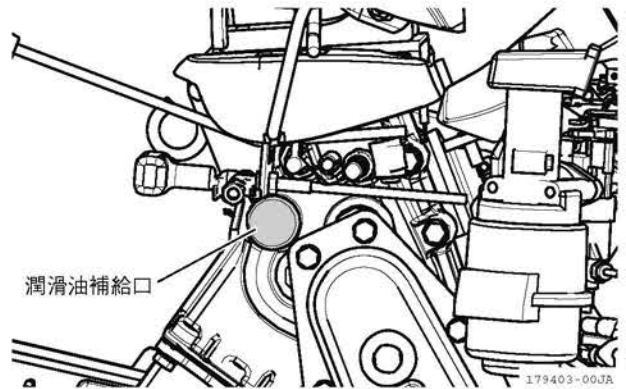


図 4-21 交換のしかた (潤滑油補給口)

【参考】

ミッションオイルが完全に抜けきらず、規定量給油できない場合があります。こぼれないように給油してください。

エアクリーナーの洗浄のしかた

⚠ 警告

エアクリーナーエレメントの掃除は運転前に行ってください。運転直後は掃除をしないでください。

【守らないと】

パッチン錠などが高温になって、やけどをするおそれがあります。

エアクリーナーを汚れたままで使用すると、エンジンの出力低下や、故障の原因になります。つぎの要領で、エアクリーナーを定期的に洗浄してください。

1. オイルだまりを固定している、パッチン錠を解除して、オイルだまりを外します。(図 4-22)
2. エレメントを灯油で洗浄します。
3. エレメントをエンジンオイルに浸し、オイルのしずくが落ちない程度に振り切る、またはしぼります。

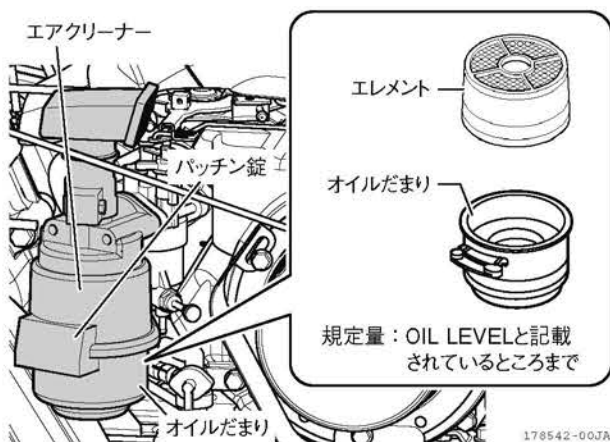


図 4-22 エアクリーナー

4. オイルだまりはよく洗浄し、新しいエンジンオイルを規定量入れます。
5. エレメントの上下方向を間違えないようにエアクリーナーへ入れ、オイルだまりを元通りに取り付けます。(図 4-22)

燃料フィルターエレメントの掃除のしかた

⚠ 警告

- 燃料フィルターの取付後、漏れがないか点検してください。
- ガソリンが周りに付着した場合、きれいにふき取り、完全にかわかしてからエンジンを始動してください。

燃料フィルターエレメントは、燃料内の小さなごみをこし取るものです。つぎの要領で、定期的に掃除してください。

1. 燃料遮断レバーを「C」(閉)位置にします。(図 4-23)

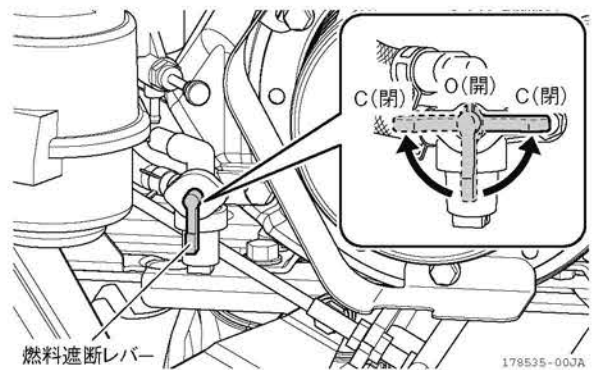


図 4-23 燃料遮断レバー

2. 燃料フィルター下部の四角部を工具 (10 mm) でゆるめます。(図 4-24)
3. 燃料フィルター内の水やごみを取り除き、フィルターネットの目づまりなどを灯油で掃除します。
4. フィルターネット、パッキン、ストレーナーカップの順に元通りに取り付けます。(図 4-24)

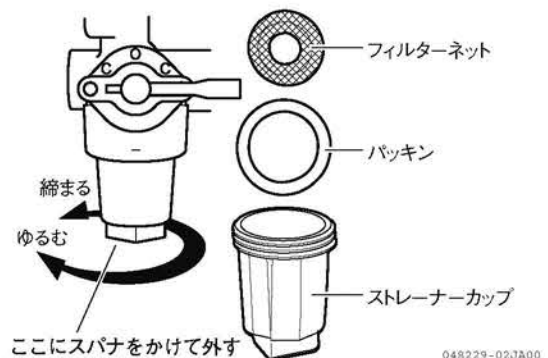


図 4-24 燃料フィルターエレメント

【参考】

フィルターネットは、燃料フィルターの上に入っています。

主クラッチレバーの点検・調整のしかた

■ 点検のしかた

1. ベルトカバーを外します。

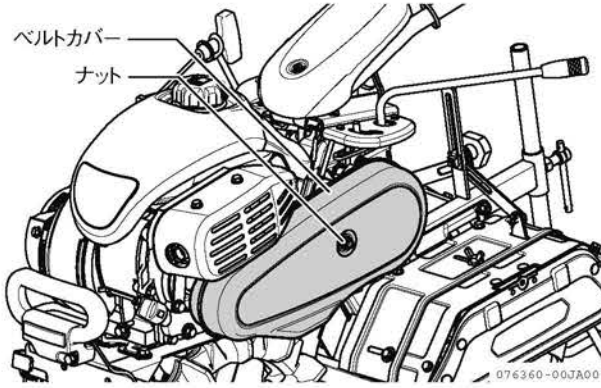


図 4-25 ベルトカバー

2. 走行クラッチベルトに亀裂や破損がないことを確認します。亀裂や破損などがある場合は交換します。
3. 走行変速レバーを「F1」（低速）位置にし、主クラッチレバーを「入」位置で1輪管理機が動かない、「切」位置で1輪管理機が手押しできることを確認します。
(10 ページの「主クラッチ」を参照)
4. 主クラッチレバー「切」位置、走行変速レバーを「N」（中立）位置にして、主軸プーリーが手で軽く回り、ベルトと主軸プーリーの連れ回りがなくことを確認します。(図 4-26)

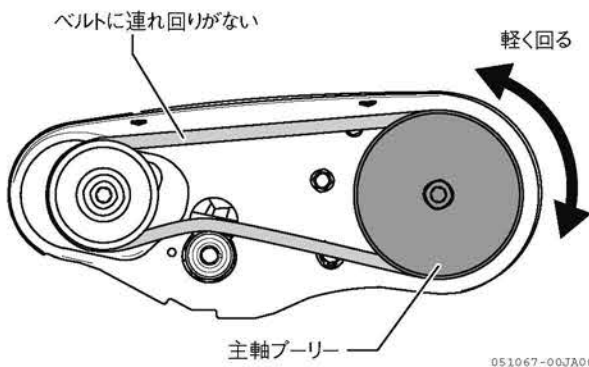


図 4-26 点検のしかた

■ 調整のしかた

1. ベルトカバーを外します。
2. 主クラッチレバーを「入」位置にします。
3. 主クラッチワイヤ調整ねじで調整します。主クラッチワイヤ調整ねじで調整しても、ベルトの連れ回りが発生する場合はベルトの交換時期です。ベルトを交換してください。

(図 4-27、図 4-28)

〈YK301SK,S〉

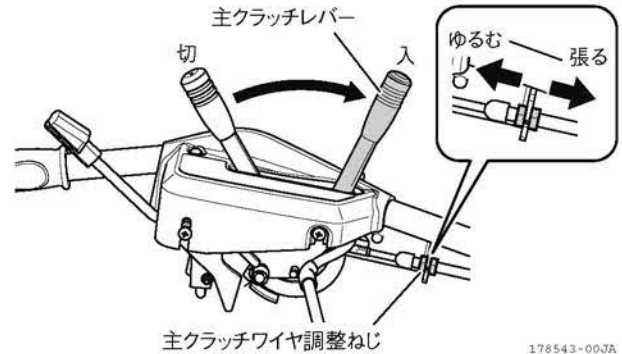


図 4-27 主クラッチワイヤ調整ねじ (YK301SK,S)

〈YK301SK,H〉

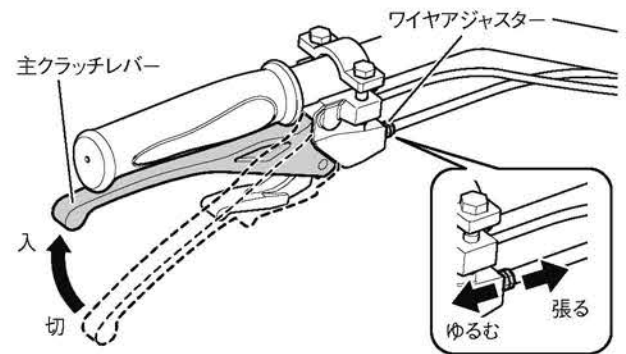


図 4-28 主クラッチワイヤ調整ねじ (YK301SK,H)

4. ベルト中央部を約 20 N の力で押したときのたわみが約15 mmになるように調整します。
(図 4-29)

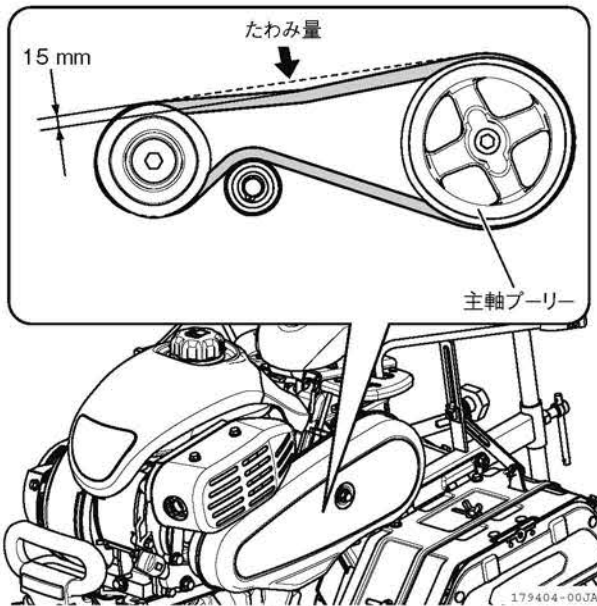


図 4-29 点検のしかた

5. 点検・調整後は、ベルトカバーを元通りに取り付けます。

ハンドル上下レバーの点検・調整のしかた

■ 点検のしかた

1. ハンドル上下レバーの遊び量が1~3 mmあることを確認します。(図 4-30)

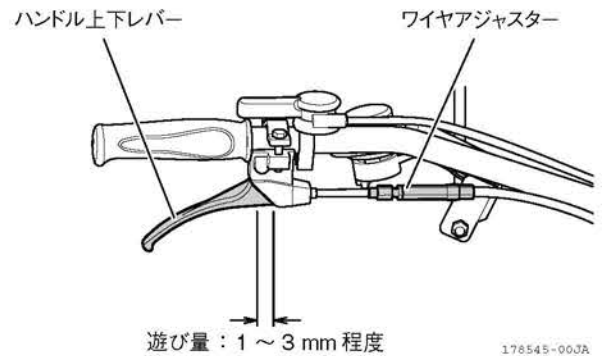


図 4-30 ハンドル上下レバーの遊び量

2. レバーを握りロックを解除します。
3. ハンドルを上下に動かし、適切な位置でレバーを放すと、ハンドルの位置が固定されることを確認します。

■ 調整のしかた

ハンドル上下レバーを握らない状態でレバーの遊び量が1~3 mmになるように調整します。(図 4-31)

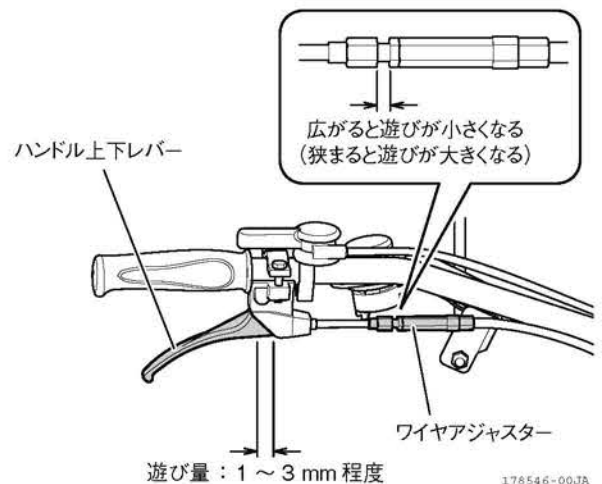


図 4-31 ハンドル上下レバーワイヤアジャスター

【重要】

調整後は、レバーを握るとロックが解除され、ハンドルを上下に動かすことができます。適切な位置でレバーを放すと、ハンドルの位置が固定されることを確認してください。

増締めするところ

■ エンジン取付ボルト(4カ所)

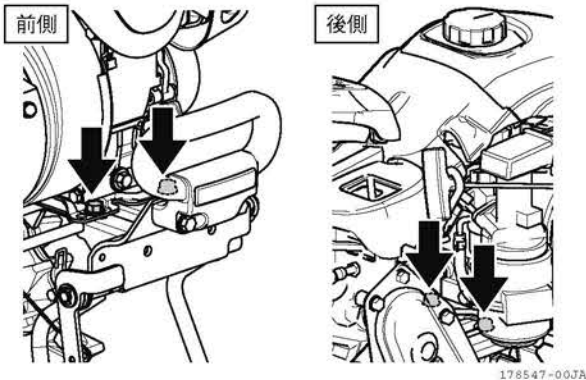


図 4-32 エンジン取付ボルト

■ 耕うん爪取付ボルト(全箇所)

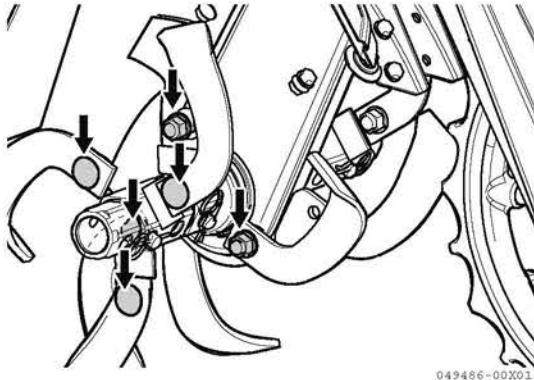


図 4-33 耕うん爪取付ボルト (全箇所)

■ 走行ケース取付ボルト・ナット(全箇所)

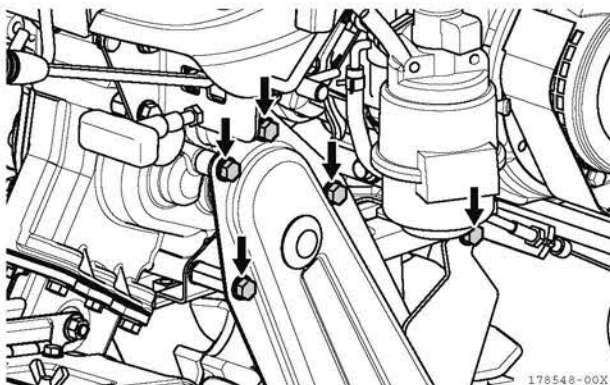


図 4-34 走行ケース取付ボルト・ナット (全箇所)

耕うん爪の点検・交換のしかた

⚠ 注意

爪の手入れや交換をするときは、厚手の手袋を着用してください。

【守らないと】

思わぬけがをするおそれがあります。

効率のよい作業をしていただくために、耕うん爪は、早めに交換してください。

耕うん爪の点検のしかた

■ 点検のしかた

- ・ 耕うん爪の損傷・曲がり、および摩耗を点検します。
- ・ 取付部のガタがないか点検します。

■ 耕うん爪の摩耗の見かた

耕うん爪の爪摩耗率が約 60 % になっていると交換時期です。(図 4-35)

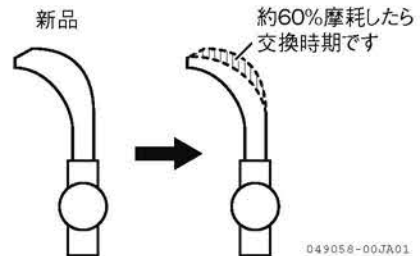


図 4-35 耕うん爪の摩耗 (ナタ爪・揚土爪)

耕うん爪の交換のしかた

⚠ 注意

爪の向きと回転方向を間違えないように注意してください。

【守らないと】

思わぬけがをするおそれがあります。

表 4-6 爪の取付方向

	正しい付けかた	間違った付けかた
正転作業		
逆転作業		

【重要】

耕うん爪を取り付けるときは、爪の種類や本数、爪の向き、回転方向に注意して、正しく取り付けてください。間違って取り付けると、故障の原因になります。

1. 耕うん爪の取付ボルトを外して、爪を交換します。(図 4-36)

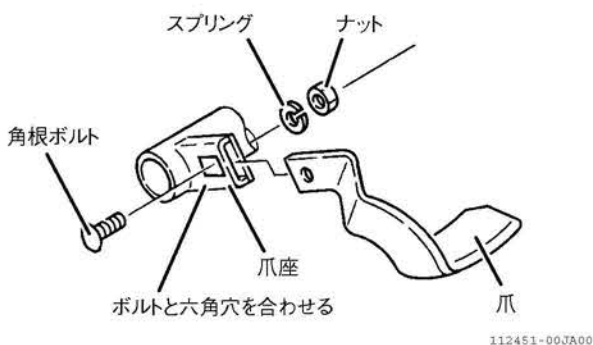


図 4-36 爪交換

2. 交換後は取付ボルト、取付ナットを締めます。

【参考】

爪の本数については、31 ページの「爪・爪軸のセットのしかた (YK301SK,S)」を参照してください。

点火プラグの点検・掃除・交換のしかた

⚠ 警告

点火プラグの点検・掃除・交換は、運転前に行ってください。運転直後は点検・掃除・交換をしないでください。

【守らないと】

高温部でやけどをするおそれがあります。

電極部がすすで黒ずんでいたたり、損耗または破損したりしている点火プラグを使用すると、エンジンの不調や排ガス不良になります。

定期的に点火プラグの点検・掃除をしてください。

■ 点検のしかた

1. リヤカバー (ねじ) を外します。(図 4-37)

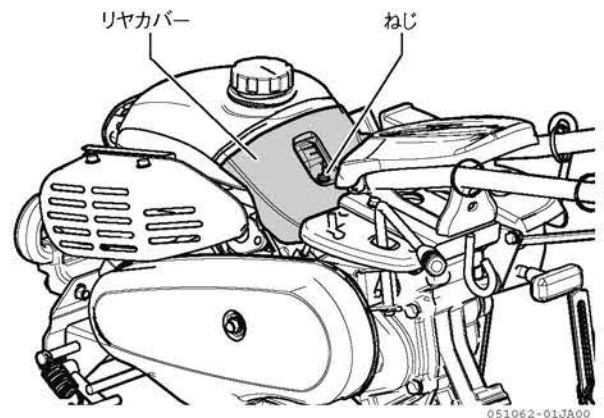


図 4-37 リヤカバー

2. プラグコードを外します。(図 4-38)

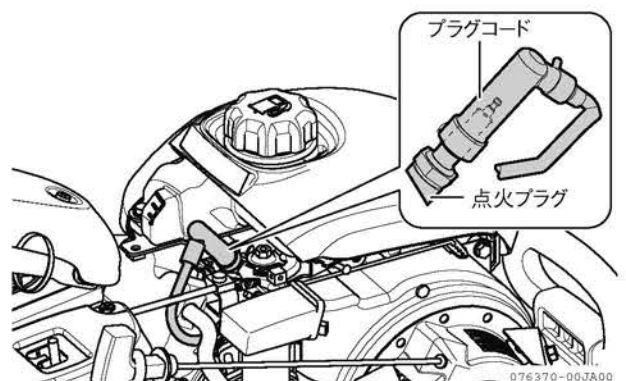


図 4-38 点火プラグ・プラグコード

3. 付属のプラグレンチを使用して点火プラグをエンジンから外します。

【参考】

プラグレンチはお手持ちのドライバーなどと合わせてご使用ください。(図 4-39)

4. 点火プラグの電極部の焼け具合、損耗の程度を点検します。
5. 火花ギャップ（電極すきま）を0.7 mmに調整します。(図 4-40)
6. 点火プラグを元通りに取り付け、プラグコードを確実に差し込みます。
7. リヤカバーを元通りに取り付けます。

【重要】

点火プラグを取り付けるときは、ねじ山をつぶさないように、はじめに手で締め込んでから、プラグレンチで締め付けてください。(図 4-39)

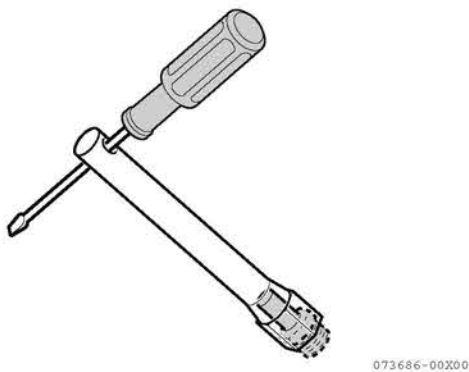
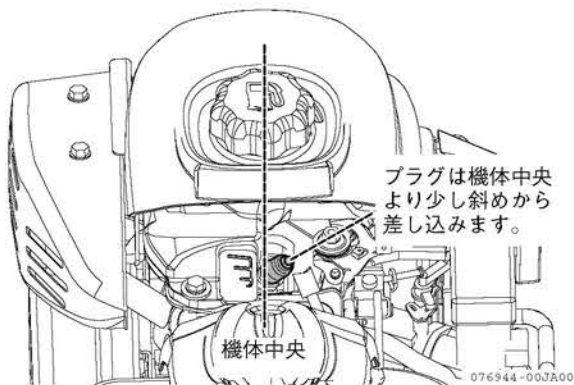


図 4-39 プラグレンチとドライバー

■ 掃除のしかた

電極部がすすで黒ずんでいたら、電極部をブラシなどで掃除します。

■ 交換のしかた

電極部が損耗または、破損したものは新品と交換します。点検のしかたの要領で点火プラグを外し、交換してください。(図 4-38、図 4-40)

表 4-7 点火プラグ

標準点火プラグ	NGK製(BP6HS)
---------	-------------

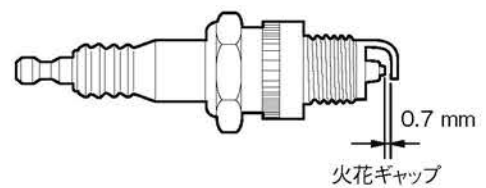


図 4-40 火花ギャップ

燃料ホース・電気配線の点検のしかた

 注意

ゴムホース類は、時間がたつと劣化します。2年ごとに交換してください。

【守らないと】

燃料が漏れて火災ややけどを負うおそれがあります。

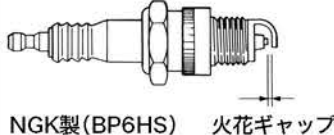
燃料ホースの傷や接続部の締付バンドのゆるみ、燃料漏れがないことを確認します。

また、電気配線が他の部品に接触して、被覆のはがれや傷がないこと、接続部のゆるみがないことを点検します。

燃料ホースや電気配線が傷んでいる場合は、お買い上げいただいた特販店またはJAなどで修理してください。傷んでいなくても、2年ごとに交換するようにしてください。

不調診断のしかた

表 4-8 不調診断のしかた

状 況	この確認をしてください	処 置	参照ページ
エンジンが始動しない場合	燃料タンクに燃料が入っていますか。	燃料を補給してください。	40
	エンジンの始動手順が間違っていますか。	正しい始動手順でエンジンをかけてください。	18
	燃料遮断レバーが「C」(閉)位置になっていませんか。	燃料遮断レバーを「O」(開)位置にしてください。	18
	燃料に水が入っていませんか。	燃料フィルターに水がたまっていれば、燃料フィルターを外して、水抜をしてください。	45
	ご購入後 1 カ月以上経過したガソリンを使用していませんか。	燃料タンク、キャブレター内のガソリンを抜き、新しいガソリンを補給してください。	40
	点火プラグが悪くなっていますか。 	電極部がすすで黒ずんでいたら、電極部をブラシなどで掃除してください。 点火プラグの火花ギャップを調節してください。または、新しい点火プラグと交換してください。それでも始動しない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。	49
各リード線が外れていませんか。	コネクター、リード線の接続を点検してください。	-	
各部に振動が多い場合	エンジンが振れるのではありませんか。	エンジン取付ボルトを強く締め直してください。	48
エンジンの力がない場合	エアクリナーにごみが詰まっていますか。	エレメントを外し、きれいに掃除するか交換してください。	45
	エンジンオイル量が少なくなっていますか。	エンジンオイルを補給してください。また、古くなっている場合は、新しいエンジンオイルと交換してください。	42
	ベルトが張りすぎていませんか。	適正な張りに調整してください。	46
	エンジンの回転が上がりますか。	アクセルレバー取付位置が動いていたら、元の位置に確実に固定してください。エンジン回転が上がらない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAに相談してください。 アクセルワイヤのセット位置を変えてください。エンジン回転が上がらない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAに相談してください。	-
エンジンの圧縮がないのではありませんか。	点火プラグを締めてください。それでも改善しない場合は、ピストンリングなどの摩耗も考えられます。お買い上げいただいた特販店、またはJAに相談してください。	49	
主クラッチレバーを「入」位置にしても走行しない場合	ベルトが伸びて、スリップしていませんか。	ベルトの張りを確認してください。	46
	車軸ピンが切れていませんか。	車軸ピンを交換してください。	29

保管するときは

⚠ 注意

- 1 輪管理機を高いところに保管しないでください。また、ハンドル部を利用して1 輪管理機を吊り下げての保管もしないでください。落下するおそれのある保管方法は絶対にしないでください。
- 格納（保管）は、1 輪管理機が倒れたり動いたりしない平たんで安定した場所にスタンドを立てて格納してください。
- 1 輪管理機にカバーをして保管する場合は、耕うん爪などの突起物でけがをしないように、壁など人が近づかない方向に向けて保管してください。
- エンジンが高温のときは、本体カバーをかけないでください。エンジンが冷えたことを確認してからかけてください。
【守らないと】
火災の原因になります。

ロータリーを装着しているときは壁に向けて保管する。

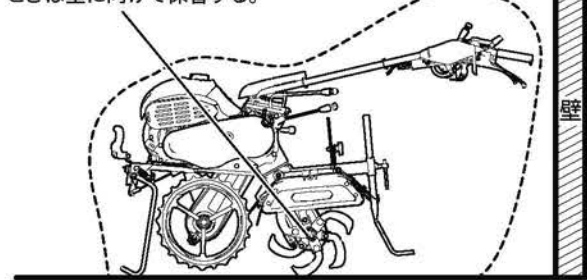


図 5-1 保管方法

1 輪管理機は、直射日光や雨水のあたらない、風通りのよい屋内で保管します。雨水などがエアクリーターやキャブレターにかかると、エンジンの故障などにつながります。

特に長期保管するときは (1 カ月以上)

【重要】

- 1 カ月以上 1 輪管理機を使用しない場合は、必ず燃料タンク、キャブレター、燃料フィルターの中の燃料を完全に抜き取ってください。抜き取らないと、エンジン不調の原因になります。(41 ページ参照)
- 長期保管のときは、車輪の下に木台を敷いてください。または、スタンドを立てて車輪を浮かせてください。

保管のしかた

エンジンの手入れ

1. 点火プラグを外します。
(49 ページの「点火プラグの点検・掃除・交換のしかた」を参照)
2. プラグの取り付けしていた穴からガソリンエンジン用のエンジンオイルを約2~3 cc入れます。
3. 点火プラグを外すときの逆の手順で取り付けます。

【重要】

点火プラグを取り付けるときは、ねじ山をつぶさないように、はじめに手で締め込んでから、プラグレンチで締め付けてください。

4. リコイルスターターを軽く引いて、重たくなったところ（圧縮位置）で止めます。
5. リヤカバーを外すときの逆の手順で取り付けます。

燃料の抜き取り

燃料タンク・キャブレター・燃料フィルターの中の燃料を完全に抜き取ります。

作業方法は、40 ページの「燃料の点検・補給・排出のしかた」を参照ください。

トラックへの積み・降ろしのしかた

⚠ 警告

ロープなどを使って人力で荷台へ引き上げたり、人力で持ち上げたりしないでください。

【守らないと】

落下により傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

トラックでの運搬時は燃料タンク内のガソリンの量を、積み込み、積み降ろしに必要な最低量とし、残りのガソリンは別に用意しておいた、法で定められたタンクに移して運搬してください。

【参考】

トラックへの積み・降ろしのしかたは、同梱の「安全に作業をするために ヤンマー管理機・ミニ耕うん機」の記載内容をお読みになり、注意事項を守ってください。

トラックの荷台へロープで固定する場合は、バンパーとロープフックにロープをかけてください。

(図 6-1)

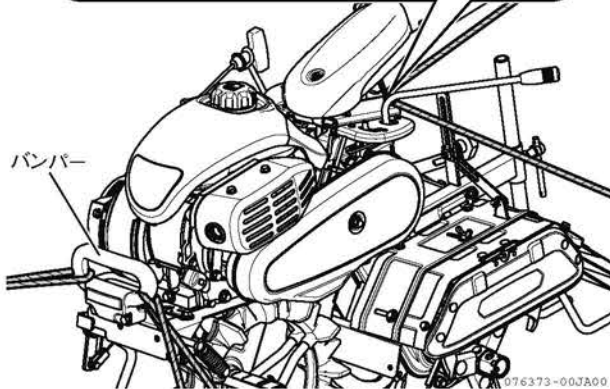
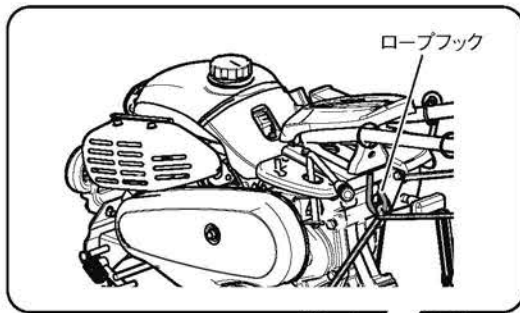


図 6-1 ロープ固定

【重要】

- トラックの荷台へロープで固定する場合は、爪、抵抗棒を接地状態にして、ロープをかけてください。
- 輸送時は、燃料遮断レバーを「C」(閉)の位置にしてください。
エンジンの故障の原因になります。

7章 仕様

主要諸元

表 7-1 主要諸元

名称		ヤンマー1輪管理機			
型式名		ヤンマー K0062	ヤンマー K0063		
販売型式名		YK301SK	YK301SK		
仕様		S	HNTJB	HUNTJB	
主要寸法	全長 (mm)	1455	1460		
	全幅 (mm)	580	590		
	全高 (mm)	1010	885		
質量 (kg)		58	46		
エンジン	型式名	GB101LN			
	種類	空冷4サイクルガソリンエンジン(OHV)			
	総排気量 (L{cc})	0.098{98}			
	定格出力/回転速度 (kW{PS}/rpm)	1.4(1.9)/1600			
	最大出力 (kW{PS})	2.2(3.0)			
	使用燃料	自動車用無鉛ガソリン(レギュラーガソリン)			
	燃料タンク容量 (L)	1.0			
	始動方法	リコイルスターター方式(iスタート)			
	エアクリーナー	オイルバス			
エンジンオイル規定量 (L)	0.4				
走行部	車輪	ゴムラグ	-		
	車輪サイズ (mm)	φ330(1・2車輪)	-		
	車輪外幅	1輪タイプ (mm)	95	-	
		2輪タイプ (mm)	127	-	
	主クラッチ方式	ベルトテンション式			
	走行変速段数 (段)	前進2段・後進1段	前進2段		
	走行速度	前進 (m/s)	0.53・1.06	0.59・1.30※	
		後進 (m/s)	0.40	-	
車軸形状	形状	丸軸			
	軸径 (mm)	φ20			
PTO回転速度	正転 (rpm)	212	179		
	逆転 (rpm)	410	343		
ロータリー	駆動方式	センタードライブ (チェーン駆動)	-		
	爪回転外径 (mm)	φ300	-		
	耕うん軸径 (mm)	φ25	φ20		
	耕うん幅 (mm)	170~355	-		
	変速段数 (段)	正転1・逆転1			

この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

※YK301SK,Hの走行速度は、外径φ400の車輪を装着した場合の速度です。

廃棄をするときは

廃棄物を間違った方法で処分すると、環境汚染につながります。この1輪管理機に使用されている、燃料・オイル・フィルター・ベルト・ホースなどは、正しく処分してください。

1輪管理機の廃棄

【重要】

1輪管理機を廃棄するときは、お買い上げいただいた特販店またはJA、もしくは廃棄物処理業者に依頼してください。法律に違反する行為は絶対にしないでください。詳しくは、お住まいの自治体の指導に従ってください。

廃油の処理

オイル交換で出た廃油は、河川や下水道、溝、空地などに絶対に捨てないでください。環境汚染につながります。

廃油の処分については、お買い上げいただいた特販店またはJAまでご相談ください。

ホース類の処理

ホース類の合成ゴム製品は、放置したり、捨てたりせず、お買い上げいただいた特販店またはJAへお渡しください。資源としてリサイクルされます。

9章 サービスと保証について

保証書は大切に保管してください

「保証書」は、お客様が保証修理を受けられる際に必要になるものです。お読みになった後は、大切に保管してください。

アフターサービスをお受けになるときは

1輪管理機の調子が悪いときは、52ページの「不調診断のしかた」に従って、点検・処置してください。それでもなお不具合があるときは、つぎの「ご連絡していただきたい内容」を明確にして、お買い上げいただいた特販店またはJAまでご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- ・ 販売型式名と製造番号
- ・ エンジンの場合は、エンジンの番号
- ・ ご使用状況は？
(車速やどんな作業をしていたときに)
- ・ どのくらい使用されましたか？
(約□□アールまたは約□□時間使用后)
- ・ 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお伝えください。

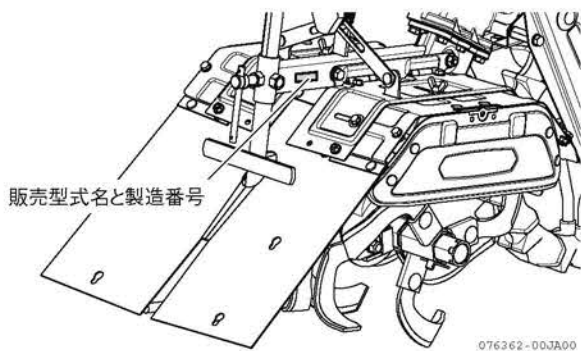


図 9-1 機体銘板

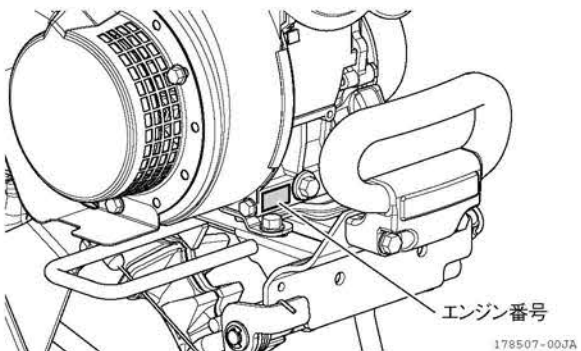


図 9-2 エンジン番号

補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については、納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

メーカー純正部品・オイルについて

純正部品・純正オイルは、厳密なテストを重ね、厳しい品質検査に合格したもので、安心して使用していただけます。

部品・オイルを交換する場合には、必ず純正部品・純正オイルをご指定ください。



2034455

図 9-3 純正部品・純正オイル

改造について

勝手な改造はしないでください。安全性・性能・耐久性の保証の対象外となります。

アクセルレバー	あ	11
エアクリーナー	え	15, 45
エレメント		45
エンジンオイル		42
エンジンスイッチ		11
エンジン番号		1
延長シュノーケル		15
機体銘板	き	1
緊急停止ワイヤ		11
検油棒	け	42
耕うん爪	こ	48
ゴム板		15, 16
サイドスタンド	さ	13
主クラッチレバー	し	10
潤滑油補給口		43
スイング調整ねじ	す	26
スタンド操作ノブ		13
走行変速レバー	そ	12, 21, 24, 25
チョークレバー	ち	14
爪	つ	31
点火プラグ	て	49, 50
ドレンプラグ	と	43
燃料キャップ	ね	40
燃料遮断レバー		14, 18
燃料フィルター		41, 45
ハンドル上下レバー	は	11
バンパー		54
尾ソリ	ひ	15
火花ギャップ		50

ベルトカバー	へ	46
ミッションオイル	み	43
ゆびクラッチレバー	ゆ	10
リコイルスターター	り	14, 19
ロータリーカバー	ろ	16, 26
ロータリー変速レバー		12
ロープフック		54
ワンタッチキャブドレン	わ	14, 41

11章 部品リスト(部品早見表)

主要消耗部品

表 11-1 主要消耗部品

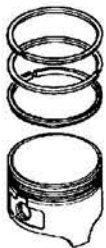
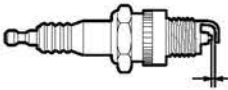
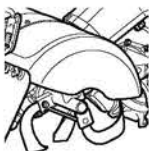
NO.	品名	コードNo.	仕様		
			S	HNTJB	HUNTJB
1	Vベルト トクB 32H	25123-003201	○	○	○
2	車軸オイルシール	24421-253808	○	—	—
		1W0506-09823	—	○	○
3	耕うん軸オイルシール	1A2880-42140	○	○	○
4	ナタツメL	1A1735-43500	○	—	—
5	ナタツメR	1A1735-43510	○	—	—
6	ヘンシンナタツメL	1A2240-43520	○	—	—
7	ヘンシンナタツメR	1A2240-43530	○	—	—
8	アクセルワイヤ	1A2890-54010	○	○	○
9	ハンドル上下ワイヤ	1A2311-55580	○	○	○
10	主クラッチワイヤ	1A2890-54051	○	—	—
		1A2890-54061	—	○	○
11	緊急停止ワイヤ	1A2222-55770	○	—	—
12	スタンドワイヤ	1A2890-61700	○	—	—
13	シャジクピン(SK)	1A2252-31700	○	—	—
14	点火プラグ	165002-14620	○	○	○

12章 用語解説

本書の中で使われている用語の解説です。

表 12-1 用語解説

用語	解説	参照ページ
エLEMENT 	エアクリーナーの構成部品の一つ。 空気の通り道にあり、吸気からちりやほこりを取り除きます。 エLEMENTで取り除かれたちりやほこりは、オイルだまりに落ちます。 耕うん機を長時間使用すると汚れがたまりますので、定期的に洗浄してください。	45
オイルバス式 エアクリーナー 	燃焼・爆発するために吸引される空気をきれいにするエアクリーナーの1種。 エアクリーナーの下側にエンジンオイルをため、エアクリーナー内の複雑な吸気の経路を通る途中で落ちるちりやほこりをエンジンオイルの粘性で吸着沈殿させます。 長時間使用すると、エンジンオイルの中に沈殿物がたまるので、定期的にエンジンオイルを交換してください。	15、45他
キャブレター 	エンジンの燃料(ガソリン)を気化する部品のこと。	14、41他
コネクター 	配線と電気部品をつなぐカプラーのこと。 多くはプラスチック製です。	52
摺動部 	たとえば、クラッチレバーやアクセルレバーを操作すると、そのレバーの動きに合わせてクラッチ、エンジンなどが作動します。このレバーと作動部をワイヤなどで接続しています。このワイヤが「摺動部」です。摺動部の動きが悪くなると、運転者の操作が作動部にうまく伝わらず、1輪管理機をうまく操作できなくなります。	35
ドレン (ホース)  キャブドレン  ドレンプラグ 	長期保管時には燃料を抜き取る必要があります。 燃料を抜く場所がドレンです。 潤滑油などを交換する場合は、潤滑油のドレン部からオイルを抜き取り、ドレンプラグ(栓)を取り付けてから新しいオイルを補給します。	14、41、43、44
培土 	作物の根元に土を寄せること。	3
ハンチング 	エンジン回転が不安定になること。	20

用語	解説	参照 ページ
ピストンリング 	エンジンのピストン部に装着されている金属製のリング(輪)です。ピストンリングは爆発漏れを防ぐ、エンジンシリンダー内の潤滑など、エンジンがスムーズに動くために重要な役割を担っています。	52
火花ギャップ (電極すきま) 	ガソリンエンジンの爆発には、点火が必要です。この点火を起こす部品を点火プラグと言います。プラグ先端が電極になっていて、このすきまを火花ギャップと言います。適切なすきま(火花ギャップ)がないと、火花が飛ばず、エンジンは爆発しません。	50
尾ソリ	耕うん深さを調節するときに使用する装置です。	15
ほ場	耕うんする畑のこと。	3
リード線	電気部品をつなぐコード(電気配線)のこと。	52
ロータリー 	耕うん作業をする部分のこと。 耕うん軸、耕うん爪、ロータリーカバーなどで構成されます。	4、12他

お問い合わせ先

お住まいの地域の販売会社へお問い合わせください。

ヤンマーアグリジャパン株式会社

本社

〒530-8321 大阪市北区鶴野町1番地9号
梅田ゲートタワー

TEL (06)6376-6345

北海道支社

〒067-0051 北海道江別市工栄町10番地6

TEL (011)381-2300

東北支社

〒984-0011 宮城県仙台市若林区六丁の目西町8番地1
斎喜センタービル 1F

TEL (022)288-8451

関東甲信越支社

〒300-1161 茨城県稲敷郡阿見町よしわら1丁目19番地1

TEL (029)844-9007

中部近畿支社

〒524-0041 滋賀県守山市勝部2丁目3番地9号

TEL (077)582-9300

中四国支社

〒710-0024 岡山県倉敷市亀山622番地

TEL (086)428-5151

九州支社

〒833-0001 福岡県筑後市大字一条535番地2

TEL (0942)53-0333

ヤンマー沖縄株式会社

〒901-2223 沖縄県宜野湾市大山7丁目11番地12号

TEL (098)898-3111

ヤンマーアグリ株式会社

〒702-8515 岡山県岡山市中区江並428番地

お客様相談室
TEL (06)7636-9298

2021年7月1日現在

お客様メモ

購入日	年	月	日
購入店名			



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。誤った使いかたを
すると、事故を引き起こすおそれがあります。お読みになった後も必ず製品の近くに保存してください。

ヤンマーアグリ株式会社

yanmar.com

0A211-JA0750
2025.07-0
Japanese